

実践例集

# 仲間づくり



平成20年(2008年)  
鹿児島県教育庁人権同和教育課

## はじめに

「人権教育は、すべての教育の基本である」各学校にあっては、この理念の下、管理職をはじめ教職員が、[自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること]ができるための人権感覚を培うことを自らに課すとともに、目の前の児童生徒にもそれが実感できる教育活動を展開することに最善の努力をしていると認識しております。

とりわけ、教職員同士、児童生徒同士、教職員と児童生徒等間の人間関係や、学校・教室の全体としての雰囲気などは、学校教育における人権教育の基盤をなすものであります。この基盤づくりは、校長はじめ、教職員一人一人の意識と努力により、即座に取り組めるものでもあります。

このような基盤づくりとしての取組は、児童生徒が、「他の仲間とともによりよく生きようとする態度」や「人権問題に直面してそれを解決しようとする実践的な行動力」などを育成することにつながるのではないのでしょうか。

県内のある教師は、“子どもが見えるというのは、子どものうわべの姿(=事実)だけを見て対策を立てるというのではなく、事実から子どもがそうなったわけ(=真実)を生育史や生活背景までたどって探り当て、そこからその子を丸ごと捉え直すことだと気付いた。”と語っています。

また、ある校長は、“「あの子がいると困る」ではなく、「あの子がいないと困る」実践を”と呼びかけ、“学校に希望あれ 子どもに光あれ 教師に熱あれ”と自ら生徒と向き合っています。そして、仲間としての教職員に“「教師になる」ために最も大切なことは、数々の失敗や苦しみを通して得られつつある自分の成長を通して、どんな子どもにも成長の契機があるのだということを体ごとつかむこと”だと温かい伴走の姿勢を示しています。

県教育委員会では、「鹿児島県人権教育・啓発基本計画」(平成17年施行)や「人権教育の指導方法等の在り方について〔第一次とりまとめ〕〔第二次とりまとめ〕」に基づいて、これまでも啓発資料や指導資料等を発行し、各学校の人権教育推進に係る基本的な考え方の理解を図ったり、具体的な取組の充実・深化に寄与したりしてきたところです。

そこで、本年度は、自分と他の人の大切さが認められるような環境をつくるための一助として、「仲間づくり」に視点をおいた指導資料を作成いたしました。どの校種でも取り組むことができる「班ノート」を活用しての取組や校種別の特別活動や道徳の時間等の「仲間づくり」に関する学習指導案(例)を掲載してあります。

「仲間づくり」は、人権尊重の精神に立つ学習指導、学級経営、生徒指導などの基盤になるものでもあります。それぞれの学級や学校の実態及び地域の実情に即して、本指導資料を活用し、自他の大切さを認め、支え合うことができる子どもたちを育てていただくことを期待いたします。

最後になりましたが、御多用な中、本指導資料作成に御尽力頂きました関係機関、学校及び資料作成委員の皆さまに心からお礼申し上げます。

# 目 次

## ○ はじめに

I 「仲間づくり」について	1
---------------	---

## II 実践例

### 1 小・中・高等学校共通

① 「班ノートの取組」	6
-------------	---

### 2 小学校

① 低学年：「お互いの思いを知り合おう」	10
----------------------	----

② 中学年：「お互いの思いをもっと知り合おう」	13
-------------------------	----

③ 高学年：「差別を許さない仲間づくり」	18
----------------------	----

④ 高学年：「社会科授業実践例」（单元名「幕府の政治と人々の成長」）	25
------------------------------------	----

### 3 中学校

① 「人を区別する普通って何」	32
-----------------	----

② 「それぞれの『生きる』を考えよう」	38
---------------------	----

### 4 高等学校

① 「自分の生き方を見つめる」	44
-----------------	----

② 「『自分の大切さ』と『他の人の大切さ』」	48
------------------------	----

## 「仲間づくり」について

「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができるために必要な人権感覚は、児童生徒に繰り返し言葉で説明するだけで身に付くものではない。このような人権感覚を身に付けるためには、学級をはじめ学校生活全体の中で、自らの大切さや他の人の大切さが認められている状況を生み出すことが肝要である。個々の児童生徒が、自らについて、一人の人間として大切にされているという実感を持つことができるときに、自己や他者を尊重しようとする感覚や意志が芽生え、育つことが容易になるからである。

したがって、人権教育の目標を達成するためには、人とのかかわりを大切にし、生活（くらし）をつなぎ合うことで自分や友達のよさに気付くとともに、お互いが磨き合い、高め合うような「仲間づくり」を進めることが大切である。それは、人権尊重の精神に立つ学習指導、学級経営、生徒指導など、人権教育の取組の基盤となるものでもある。

「仲間づくり」とは、お互いの考えや気持ちを伝え合い、分かり合うことを通して、信頼を深め、互いに支え合い、差別や偏見を許さず、なくしていこうとする集団をつくることである。そのめざすものは、他の人とともによりよく生きようとする態度や集団生活における規範等を尊重し、義務や責任を果たす態度、具体的な人権問題に直面してそれを解決しようとする実践的な行動力などを、児童生徒に身に付けさせることである。

そこにはドラマがある。取組の結果として、「問題のない学級」となったのであればそれもいい。しかし、「問題のない学級」こそ「いい学級」という教育観ではなく、もめ事や問題に気付き、それらを放っておかない学級（含学年・学校）こそが、子どもたちがめざす学級としたとき、「いい学級」の構成メンバーから遠くに追いやられがちな子どもたち（しんどい子）に光が当たり、基本的に一人一人が大事にされ、自他共に大切にされる実感を持つことができるのではないだろうか。

このような「仲間づくり」の取組は、容易にはいかないが、地道な実践は、子どもたちや私たち教師に、確実にやりがいと人権教育の真髄を味わわせてくれるものと思う。

「仲間づくり」を進めるに当たっては、次のようなことが求められる。

### 1 子どもの実態を把握する。

「仲間づくり」を進めるには、子どもたちの実態（学校生活の中だけでは見えない生活背景、子どもや保護者の思いや願いなど）の事実をつかまなければならない。

そうした、事実から見えてくる真実（そうなったわけ・背景）をつかんで取組を進めていくことが大切である。

#### (1) 新入生

ア 就学（入学）前の情報を入手する。

幼稚園・保育園，小学校，中学校，関係機関等からの連絡や聞き取り，地域の中での情報などで，子どもたちの実態をつかむ。

- ・ 可能な限り，保護者の思いや願いを聞く。

「来年入学する弟の〇〇のことなのですが，実は，迷っています。文字もまだ読めないし，会話もうまくできません。このままの状態ですと小学校へ入ったら，みんなとうまくやっていけるかどうか，みんなといっしょに活動できるかどうか，一人だけおいていかれるのではないかと思うと不安です。」

#### イ 就学時健康診断での出会いを大切にす。

アでの情報をもとに，子どもたちをよく観察するとともに，保護者との話合いの場を設ける。

#### ウ 受け入れ体制をつくる。

- ・ ア・イを受けて，学校全体での受け入れ準備を整える。
- ・ 職員での共通理解，準備に関する話合い（ハード面・ソフト面）をする。

#### (2) 他の学年

- ・ 前年度からの引継ぎ，前年度の取組の内容などを把握する。  
前年度の担任や養護教諭等からの引継ぎ，情報，具体的な取組の様子や今後の課題，周りの子どもたちの様子，学級編成時の思いなど，できるだけ詳しく引き継ぐ。

### 2 子どもたちとの出会いを大切にす。

初めて出会う子どもたちとの「人と人」としての出会いを企画する。

（教師との出会い，子ども同士の出会い）

- ・ 教師と子どもたちとの出会い，気になる子どもとの出会い，そして，周りの子どもたちとの関係をどのように築いていくのかを考え，新年度の始業式・入学式に臨む。

学級開きの日，自分（学級担任）の似顔絵を描いた小さな名刺を準備し，一人一人に手渡ししながら自己紹介を簡単にし，握手した。また，子どもたちは，自分の名前を言ったり，好きなものを言ったりする簡単な紹介ゲームを通して，初めて出会う仲間とふれあった。子どもたちは，恥ずかしそうな顔をしながらも，これからの学校生活に期待する輝きに満ちた目を光らせて仲間の中を動き回った。

### 3 学級の中にある子どもたちの人間関係を把握する。

#### (1) 日常の声かけから子どもたちの状況をつかむ。

登校する時，休み時間，給食時間，掃除時間，授業中，下校する時など，常に子どもたちに声をかけ，子どもの気持ちや思いをつかむ手立てを取ることが大切である。

#### (2) 教科担任，養護教諭，部活動の顧問など，多くの職員からの情報をもとに，子どもたちの状況をつかむ。

日常の観察や声をかける取組を続けていても，子どもたちの中にある実情は刻々と

変化している。見えているようでも見えない部分が出てくる。そこで、次のようなことをつかむために、帰りの会や学級活動等を使って話合いの場を設定する。

- ・ 子どもたちの思いや願い，口に出して言えないつらさ
- ・ 気になる子やその周りの子どもたちの様子
- ・ 子どもたちのつらさの背景にある事実

#### 4 子ども同士の思いをつなぐ日々の取組を継続する。

(1) 朝の会，帰りの会を通して仲間をつなぐ。

- ・ 教師による子どもたちの様子の報告

「今日は，〇〇さんが泣いている友だちに声をかけていました。とっても温かい気持ちになりました。」

- ・ 「心が温かくなったこと」の発表

「今日，□□さんが◇◇さんのお手伝いをしていました。私もこれからしたいと思います。」

「◎◎さんが，ちびと言われました。私は，いやなことを言わないでと言ってやりました。」

- ・ 日記の中から

学級の全員に知ってほしいこと（仲間の思いや願いなど）を，本人の了解を得て紹介する。

(2) 班ノートを通して仲間をつなぐ。

- ・ 班ノートに自分の思いや考えを綴らせることで，班の仲間の思いや考えを知り，お互いに気持ちを伝え合えるための取組を続ける。その際，自分を見つめることや仲間の気持ちへの気付きを大切にする。

(3) 教材や日記等に綴られた思いや願いをテーマとした学習を通して仲間をつなぐ。

子どもたちの中に辛い思いを抱えていることが分かったり，学級での問題が起こったりした時に，機を逃さずに人権学習を実施する。

- ・ 本人の気持ちを受けとめながら，事実を確認する。
- ・ その思いが分かる仲間を見つける。
- ・ 子どもたち一人一人が自分のこととして考えていくことができるよう，できるだけ本人が思いを語るような場をつくることが大切である。その際，事前に本人と話しながら思いを綴らせるなど，話しやすい環境をつくる必要がある。

(4) 学校での学びを保護者にも伝え，子どもたちの様子を知ってもらう。

- ・ 授業参観を通して，子どもたちの取組が，保護者の人権啓発にも資するような

工夫を行う。

「今日は、うれしくてたまりませんでした。子どもが、自分の意見を堂々と発表できました。」

「友達の考えに流されず、自分の意見をきちんと言えたことがうれしくて、うれしくて。」

- ・ 学級通信を使って、学校・学級の取組の様子や成果を積極的に伝える。
- ・ 学級PTAの場で、人権に関する主題を取り上げるなど、保護者同士の学習を計画する。
- ・ 家庭訪問を通して、子どもたちの育ちを共有する。

「何よりも、72日間、学校をいやがらずに行けたことが一番うれしい。行かなくてもいいんだよと言ったこともあるけど、『学校、行く。』と言って、休むことがなかったことがうれしいのです。」

## 5 自他の大切さが実感できるような学級づくりに努める。

- ・ 教科等の授業を通して、自他を大切にしようとする気持ちをはぐくむ。
- ・ お互いのよさを認め合い、共感的理解を深める。
- ・ 自己表現できる力やコミュニケーション能力を育成する。など  
その基盤となる取組の一例（日常生活の中で、子どもたちに人権尊重の精神をはぐくむことが大切である。）

- ・ 廊下に落ちている紙に気付かない、または、拾えない教師が、子どもの思いや悩みに気付くだろうか。見えるものを見過ごしてしまう教師が、なかなか見えない子どもの心を読み取ることは難しい。子どもの内に秘めた思いまで読み取ろうとする教師は、子どもを、人を大切にすることができる。
- ・ 普段、何げなく後ろの席の子に渡すプリント。そのプリントを渡す際に「はい、プリント」「はい、どうぞ」などの言葉を添えさせる指導を通して、具体的に仲間を大切にすることを育てることができる。何げない一つの行動を大切にしたいものである。
- ・ 子どもに対してただの「おはよう」だけでなく、心を届けるあいさつをする。そのためには、「〇〇さん、おはよう」とあいさつに子どもの名前を添える。子どもは、名前を呼ばれることによって「自分を見ていてくれる」「大切に思っていてくれる」と感じるができる。
- ・ 何の迷いもなく、何の思いもなく、無感情で、あるいは、感情を込めすぎてテストの採点をしていないだろうか。子どもは、大きな×や荒く書かれた✓をもらった経験はないだろうか。私たちは、そのころの思いを忘れてはいないだろうか。問題が解けなかった責任の一端は、教師にもあるのだから…。

## 6 保護者と保護者をつなぐ。

子どもたちのつながりを通して、学級における子どもたちの取組の様子を保護者に知らせ、保護者同士が子どもたちのよさを接点につながりをつくっていくようにする。子どもたちのよさや願いを知ることで、保護者同士がお互いの思いを語り合い、思いを共有しながら自分の子どもだけでなく、学級の子どものたちへと関心が向いていくようにする。(保護者同士の回覧ノートの活用など)

## 7 学年集団，学校集団へつなぐ。

学級だけの取組がうまくいっても、学年での偏見や差別はなくなる。同様に、学校全体でも同じ状況が残ってしまう。

そのため、学年や学校全体での取組が必要である。事例研修等を通じた学び合いや実践への方策の検討、課題の共有、実践内容の交流など、職員間においてもお互いを尊重し、指導上の課題についてよく話し合うことができるような環境づくりに努めることが大切である。

また、学校全体としての取組は、担当学年が変わっても、子どもたちが進級しても継続できる基礎となり、学年が変わるたびに「仲間づくり」が再出発するという問題を解決することにもつながっていく。

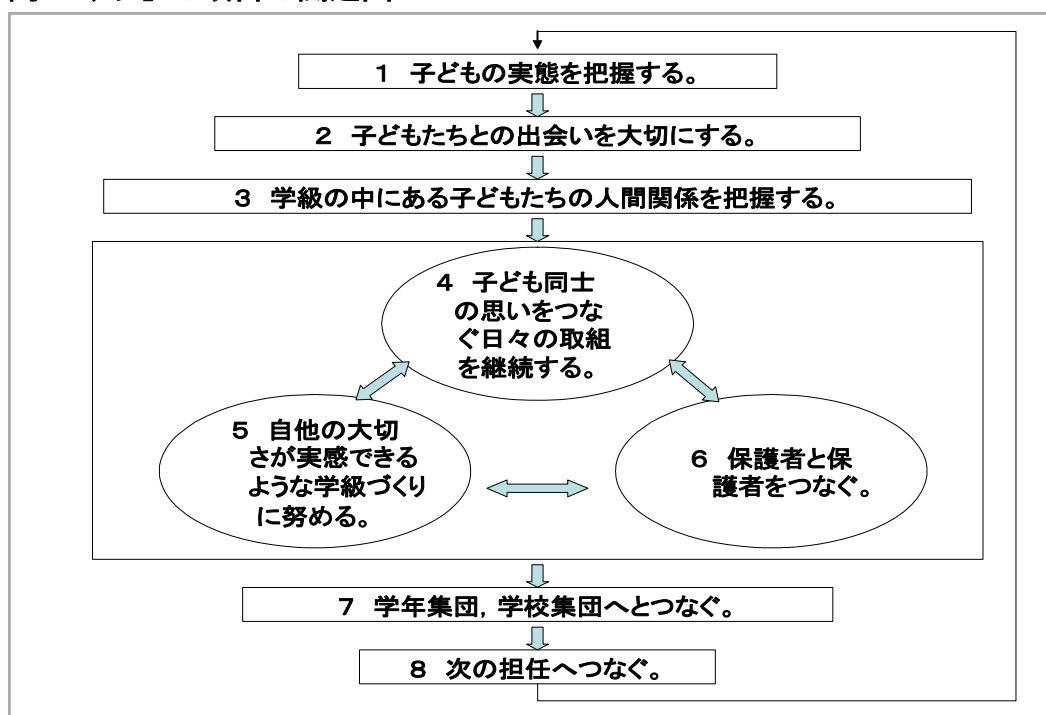
さらに、学校全体としての取組は、「開かれた学校づくり」を進めることによって家庭や地域からの理解・協力が得やすくなり、子どもたちを取り巻く地域における偏見や差別の解消にもつながっていくことになる。

## 8 次の担任へつなぐ。

年間を通して取り組んだ中身や子どもたちの様子を次の担任へつなぎ、新しい学年での取組につなげることが大切である。その際、単に資料だけの引き継ぎではなく、子どもや保護者の願いや思いを十分に伝えることが必要である。

また、継続した「仲間づくり」に取り組むことを通して、子どもたちがお互いの本当の思いを知り合うこと、お互いに支え合って生きること、差別や偏見に気付き、それを許さない集団としての力などを身に付けていくことになる。

### 「仲間づくり」の項目の関連図





## 実践例

### 1 小・中・高等学校共通

#### 1 「班ノートの取組」

##### この活動でめざすもの

- ・ 自分の内面を見つめ、心の奥にしまっていたことを振り返る機会をつくる。  
【価値的側面】
- ・ 自分の心の中の思いや考えを、ノートに綴り合うことを通して、お互いを深く知り合う感性を育てる。  
【価値的・態度的側面】
- ・ 子どもたちが互いの思いや願いなどを具体的に知り合うことで、互いを認め合ったり、互いに支え合ったりする実践力を培う。  
【技能的側面】

## 実践例

### 1 班ノートの形式，約束事など

- ・ 市販の方眼ノートなどを活用する。  
(どんなノートでもよい。形式にはこだわらない方が書きやすい。)
- ・ 基本的には、班に固定するノートとする。  
(班のメンバーが入れ替わっても、ノートはその班に固定する。1年間で班替えなどを通して、学級のほとんどの子どもたちが、その班に所属していたメンバーの思いを読んだり、思いを書き込んだりできる。)
- ・ 何でも書き込めるノート，班のメンバーで交代して綴るノートとして設定する。  
(基本的には、月日・曜日・氏名は必ず記入する。)
- ・ 班の一人が持ち帰って記入し、次の日の朝に提出する。  
(班の中で記入する順番を決めておく。)
- ・ 教師は、毎日すべてを読むが、コメントや教師の考えなどはほとんど書き込まない。書いた本人の考えや意見、気持ちなどをそのままの表現で他の班員に読ませ、受けとめさせる。  
(誤解などを招きそうな書き方や具体的な内容が知りたい場合は、記入した本人と語り、必要なものは補説して書き込むことはある。また、気付いてほしいところ、読み込んでほしいところなどには、朱線などを引くこともある。)
- ・ 班ノートの中に、学級全体としての課題があった場合は、書いた本人・班メンバーの了解を得て、学級全体に返し、みんなで考える教材とする。  
(朝の会、帰りの会、学活などの時間を使って、学級全員の課題として考え合う。)  
(学校生活だけでなく、家庭や地域社会の中でも実践しようとする課題意識をもたせる学習活動を組み立てる。)

- ・ 保護者にも知らせたい内容があった場合も，本人・班員の了解を得て，学級通信などで知らせる。  
(保護者からの意見や考えなども必要な場合は，子どもたちに返していく。)
- ・ 生活記録(日記帳)なども併用して取り組んでいる場合，班ノートが回ってきた子どもは，生活記録は書かなくてよいこととする。

## 2 自他を見つめ，思いを差し出し，共有し，支え合う班ノートの内容

- ・ 取組の当初は，下記のような自己紹介や日記風の記述が大半を占める。

5月6日(木) K・K

- ・ では，自己紹介をします。名前は，  
です。特技はフルートです。趣味は，シルバニアで遊ぶことと野球観戦をすることです。好きなチームは，巨人です。好きな野球選手は，  
と  
です。最近の好きな歌は，オレンジレンジの道しるべ，大塚愛のさくらんぼです。仲のよい友だちは，  
さんと  
さんと  
さんです。これからもよろしくお願いします。みんなも好きなこととか教えてね。

- ・ 徐々に，自己紹介や日記の中に，日常の学校生活では知ることのできなかつた内容が綴られるようになってくる。

7月15日(木) N・Y

- ・ 今日，田んぼに行って雑草を教えてもらい，稲がどのくらい育ったかも見ました。植えたときは15cmだったのに，約3倍大きくなっていました。稲の本数も27本ぐらいになっていました。すべての稲が大きく成長し，元気に育っていました。

9月13日(月) S・H

- ・ 今日，お母さんの誕生日でした。昨日プレゼントを買いました。ここでみんなに問題！私が買ったプレゼントとは何でしょうか？  
お花 タオル スリッパ 服 せんべい みんな答えてね。

9月26日(日) M・K

- ・ ぼくには，おじいちゃんとおばあちゃんが元気で，二人ずついます。  
のおじいちゃんは，83歳だけど野球もテニスもバレーもできて，とてもすごいなと思います。ボランティアで特攻基地や武家屋敷の説明をしたりしてとても元気です。お母さんのおじいちゃんやおばあちゃんは，お茶屋の仕事をいっしょうけんめいがんばっています。4人とも元気でいてほしいです。みんなもお年寄りを大事にしてください。みんなは，どう思いますか。

9月27日(月) Y・A

- ・ 私のお父さんのおじいさんは，私が2年生の時になくなりました。おじいさんはタバコをすいすぎて肺ガンでなくなりました。おじいさんは，とてもひどいガンでトイレもいけないくらいでした。12月のクリスマスイブの12時頃，死にました。私とお父さんとお兄さんがすぐかけつけて，みんな大泣きしました。とてもやさしいおじいさんで，なくなったときはとてもかなしかったです。2年半たった今，おばあさんも耳が聞こえないのと，目が全然見えません。とてもやさしいおばあさんです。長生きしてほしいです。お母さんのおじいさんは，ねぎ・お茶・人参・大根などたくさん作っています。長生きしてほしいです。今度二人のおばあさんと，おじいさんの喜ぶことをたくさんしたいです。

- ・ 学校生活の中での疑問や不満，いらだちなどが綴られ，それに対して班員が自分の思いを書くようになる。

7月1日(木) S・H

- ・ ちょっとくやしいことがありました。私が教室に他のクラスの友だちを入れると，　　さんたちが「他のクラスの人，入れないで。」と言います。でも，　　さんたちは入れているのです。少しくやしかったです。みんなはどう思いますか。

7月2日(金) S・R

- ・ 僕は，　　さんたちが好き勝手な行動をとっているので，ずるいと思うよ。人に言って自分たちはできなかつたら，ぼくは言ってほしくない。

7月5日(月) A・Y

- ・ ぼくもたまに，他のクラスの人をつれてこないでと言うことがあります。でも，ぼくも，他のクラスに引っ張られて入ったことがあります。ぼくは，本当は先生たちのいない時に入ってはいけないと思う。

7月6日(火) K・K

- ・ ぼくもAくんみたいに，たまに遊んでいるとき，他のクラスの人を入れないでほしい時があります。なぜなら，たまにぼくたちに聞かないで勝手に入れるときがあるからです。でも勝手に人に言わないで入れるのはいけないと思うので，Aくんの気持ちがよくわかります。

7月7日(水) U・Y

- ・ ぼくは，他のクラスの人を入れてもいいと思います。けど勝手に入ってくるといやです。みんなの許可をもらえばいいと思います。それに，他のクラスの知らない人が入ってきたとき，友だちになれたこともありました。

7月8日(木) H・K

- ・ わたしも，他の人を入れてもいいと思うよ。そんな他の人を入れても何も悪いことはしないと思うし，他の人と友だちになると思います。好きな人は入れて，きれいな人は入れないことをすると，その人がかわいそうだから。そんなことはせずに，みんなにやさしくすれば，みんないっぱい友だちができるかもしれないよ。

7月9日(金) S・H

- ・ 私が書いたことにみんなが意見を書いてくれてありがとう。一人で「くやしいな。」と思っていたからとてもうれしかったです。みんなも何かあったら書いてください。

- ・ 仲間について，自分の思いを綴るようになる。

11月15日(月) K・M

- ・ 今日，KくんのシャツのそでにNくんが黒ペンで書いたということがありました。Kくんは，Nくんにだきついてくるから，Nくんは黒いマジックペンで書いてしまったということです。Nくんは，Kくんの気持ちが分からないでしてしまった。Kくんは，Nくんと遊びたくてだきついた。私は，どっちが悪いかわかりません。私も，1・2年生のころ，よくいじめられていました。私のどこが気に

入らないのか。よく泣いてお母さんになぐさめられました。私があやまっても、「いやだ」とか「別にいいよ。あっち行って。」とか、いろいろと言葉が返ってきました。その時はすごくショックでした。「よく、何でいじめるのかな？私は何もしていないのに。」と思うときがあります。もうお友だちなんていないと頭の中で思いこんでいる時に、お母さんが私の相談にのってくれました。今までのことを全部話しました。いじめられている私を励ましてくれました。お母さんは、次の日、先生に手紙を渡しました。朝の会で、先生がその手紙の中身をみんなに話しました。それから私は、みんなに注目されはるかしかかったです。体育の時間、チームを作ってマット運動をするとき、2人のお友だちが私をチームにさそってくれました。とてもうれしくてなみだが出そうでした。その1日は、最高にうれしかかったです。Kくんも手紙などで伝えればいいと思います。

12月2日(木) M・K

- ・ 今日、人権学習をしました。この前書いたもやもや書きを読んで思いを書くという学習でした。読んでいくうちに、みんなは前からずっといやな思いにされてきて、今でも頭をはなれないということが分かりました。よっぽどくやしくて、そしてとても悲しかったんだと思いました。特に、体のことを言われた人は、とても悔しかったんだと思います。なぜなら、人それぞれみんな違う体をもっているからです。そう思うとなんだか涙が出てきました。Nくんは、もやもやにのせていないのに、自分がいやだと思ったことを自分から進んで発表してすごいなと思いました。先生やお母さんたちも涙が出たということは、やっぱり前からずっと苦しい気持ちだったんだと思いました。これでみんなの気持ちが分かったから、人の話を聞いて、人権を大切にしていこうと思います。

### 3 班ノートに綴られた思いを学級(学校)のみんなで共有し、実践化へつなげる。

- ・ 学級全体の課題、仲間づくりの課題となる内容については、時間と場を設け、子どもたちにその課題を返して考えさせる。
- ・ 教室の中だけの思考や意見だけでなく、生活全般(学校や家庭、地域社会)の中で実践できる力を育てるために、学校教育全般の中で、関連した取組につなげる。
- ・ 学校全体の課題となる場合も、職員会議などで提起し、全職員の課題として受け止めて共通理解を図り、指導体制をつくっていく。

## 2 小学校

### 1 低学年：「お互いの思いを知り合おう」

#### この授業でめざすもの

- ・ 自分の思いを振り返り，自己を見つめる。 【価値的・態度的側面】
- ・ 他者の思いや心の痛みを共感的に受け止め，自分の思いと重ね合わせる。 【技能的側面】

#### 1 主題名 「お互いの思いを知り合おう」(特別活動)

#### 2 主題について

「こんなことを言われた。」「こんなことをされた。」など，悔しい気持ちを訴えてくる子どもがいる。そんな時は，お互いの話を聞き，それぞれの思いを出し合うことができる。しかし，子どもの中には，どんなことをされてもじっと我慢し，されたことを口に出すことによる仕返しや，その後の状況がさらに悪くなることを恐れ，口に出すことができない子どももいる。

子どもたちは，「本音」を出し合うこともなく，互いに傷つけ合い，他者の心を踏みにじっていくことに慣れていってしまう。そこには，差別の構造があり，そこからいじめにつながっていくことも多い。

このような状況を乗り越えていくには，まずは隣に座っている仲間の心の痛みや怒り（本音）を互いに知り合うことが不可欠である。心の痛みを共有し合うことを通して，初めて互いに自らを省みるとともに，何がこうさせたのか，どうしてこうなったのかを考え合い，一人一人が大切にされる学級としての「仲間づくり」の道筋が見えてくる。

子どもたちが自分の内に秘めた「本音」を出し合い，互いにその心の痛みや怒りを共有することを大切にしたい学級づくりを進めていくために，このテ・マを設定した。

#### 3 目標

友達の内の中にある思いを知ることを通して，お互いに分かり合うことの大切さについて考える。

#### 4 指導計画（全3時間）

##### (1) 自分の内に秘めた「痛み」「怒り」を綴る。(1時間)

- ・ 教材中の子どもたちの文章を読み，自分と同じ思いをしている子どもたちがいることを知る。(教材の文章でなく，これまでに子どもたちが書いてきた文章で利用できるものがあったら提示する。)
- ・ 共感した文章について発表する。(言うことができたら，その理由も付け加えさせる。)
- ・ 「もやもや書き」として，自分の「痛み」や「怒り」を文章に綴る。(「もやもや書き」とは，学級のみんながお互いの思いをもっと知り合って，楽しい学級にしていくために，自分の心の奥の思いを綴ったものである。)

【「もやもや書き」の例】

あやまれ

先生、よくもわたしのことを「チビ」といったな。わたしはおこつてる。そのいわれたことば、もし、先生がわたしよりチビで、わたしが先生に、「チビ、チビ」といったらどう思う。

わたしは、一年のときも先生やともだちに「チビ、チビ」といわれていません。

みんな、あやまって。

(人権教育読本『ひらく』小学校3・4年用 鹿児島県人権・同和教育推進協議会編をもとに作成)

- (2) 仲間の「もやもや書き」を読み、自分と同じ思いをしている人がいることを知る。  
(本時 1時間)
- (3) 共感した思いについて話し合い、これからの生活について考える。(1時間)
- ・ 「もやもや書き」を読んで、感じたこと・思ったことなどを出し合う。
  - ・ なぜ、何がそうさせたかを考える。
  - ・ これからの自分は、どうしたらよいか考える。

## 5 本時

### (1) 目標

友達の心の中にある思いを知ることを通して、お互いに分かり合うことの大切さについて考える。

### (2) 展開例

過程	主な学習活動	指導上の留意点
導入 8分	1 みんなの書いた「もやもや書き」を読んで、どんなことで傷ついたり、悲しんだり、悔しい気持ちになったりしたのか知り合おう。	1 いじめや差別のない、誰もが過ごしやすいクラスにしていくために、お互いの心の中にある思いを知り合うことが必要であることを押さえる。  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;">                     ポイント：一人一人が書いた「もやもや書き」を読んだ教師の感想や思いを話し、教師も知らなかったことがあることなどを付け加えながら、心の中にある思いを知ることの大切さを語る。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「もやもや書き」を書いたけれど、まだみんなに知らせたくない人がいることや内容から偏見を助長する可能性のあるものは載せていないことを話し、すべてのもやもや書きではないことを知らせる。</li> </ul>
展開 30分	2 みんなの「もやもや書き」を読んでみよう。	2 黙読させる。

<p>展開 30分</p>	<p>3 共感したこと，感じたことをシ - トに綴ろう。</p> <p>4 どの思いに，自分は同じ思いを抱いたか，共感したところなどを発表しよう。</p>	<p>3 子どもたちの書いていることを見回しながら，次の発表への気持ちを高めていく声かけをする。</p> <p>ポイント：書いている内容を見ながら，発表できるかどうか確認していく。</p> <p>4 最も共感したところの発表から，子どもたちが書けなかった実態や思いをつかむようにする。</p> <p>友達の発表を聞きながら，改めて同様の，あるいは，新たな思い・痛みや感じたことなども発表させる。</p> <p>ポイント： ・ 相手の批判や悪口になってしまわないように留意する。 ・ 他の子どもに紹介したいものがあれば，本人の承諾を得て，その場で読む。</p> <p>・ 共感した思いを大切にし，自分と同じ思いをしている仲間がいることを受け止めさせる。</p> <p>ポイント：共感した気持ちや自分の感想を書かせながら，自分と同じ思いをしている仲間の存在を確認させる。</p>
<p>終末 7分</p>	<p>5 みんなが，なぜきつい思いをするようになったかを次の時間に話し合おう。</p>	<p>5 何がお互いにきつい思いをさせているのか，日常生活から考えることを知らせ，次時へつなげる。</p>

### (3) 評価

友達の内の中にある思いを知ることを通して，お互いに分かり合うことの大切さについて考えることができたか。

## 6 「もやもや書き」の中から

- ・ ちょっと〇〇が大きいだけなのに，「〇〇〇〇」と言われて，とてもいやです。その気持ちをみんなにも分かってもらいたいです。
- ・ よく友だちに顔のことなどで，いろいろ言われた。
- ・ 友だちに「ジャンボ」とか「デブ」とかいろいろ言われたことがあります。休み時間におにごっこをしたりしているとき，おにをしていると，「タッチしたらデブと言うぞ。」と言われたことがあります。とてもくやしかったです。

子どもたちが，口に出せずに抱えている悔しさや悲しさを，お互いが知り合うことを通して，その思いがどれほどなのかを共有させる。そのことから，おかしいことや人を傷つけることをしていることへの気付きが生まれ，それを出し合うことにより，人と人とのつながりが生まれる。

また，性による役割意識が少しずつ芽生える時期でもあるので，男女が互いに理解し合い，助け合い，自他を大切にしようとする態度を育てることも大切である。

## 2 中学年：「お互いの思いをもっと知り合おう」

### この授業でめざすもの

- ・ 他の人の立場に立って、その人に必要なことやその人の考えや気持ちなどが分かるような想像力や共感的に理解する力を身に付ける。 【価値的・態度的側面】
- ・ 考えや気持ちを適切かつ豊かに表現し、また、的確に理解することができるような伝え合い、分かり合うためのコミュニケーションの能力やそのための技能を身に付ける。 【技能的側面】

### 1 主題名 「お互いの思いをもっと知り合おう」(総合的な学習の時間)

### 2 主題について

人権教育の目的を具現化するためには、「知識的側面」にとどまらず、「価値的・態度的側面」や「技能的側面」を含めた資質や能力を全面的・調和的に発達させるように働きかけ、促進する必要がある。つまり、人権に関する知識を身に付けさせる受動的な形態で子どもたちの学習を推し進めるばかりでなく、人権に関わる態度やスキルをも養うことができるように、子ども自らが主体的に臨むことができる学習形態を仕組んでいかなければならない。

また、それぞれの学年においても、発達段階を考慮しながら、系統的・段階的な指導計画を立案する必要がある。こうした考えをもとに、3学年以上の総合的な学習の時間の中に『人権の日』を位置付けるとともに、年間指導計画に基づき、学校全体として人権教育を推進している。

ここに示す第4学年では、誰もが尊重される学級づくりを念頭に、一人一人のもつ「よさ」とは何かについて深く考えさせながら、お互いを見つめ、認め合い、励まし合い、支え合う人間関係を築くことができるように「お互いの思いをもっと知り合おう」という主題を設定した。

### 3 目標

- (1) 友達の表面的な言動だけを指摘するだけでなく、自らの行動を振り返ることを通して、互いに尊重し合うことの大切さについて考える。
- (2) 「人権の日」の人権学習発表会の場で、「友達紹介クイズ」を発表する活動を通して、お互いを認め合うことの大切さを伝えるとともに、自らそれを実践しようとする態度を培う。



#### 4 指導計画

『人権の日』学習計画表(4)年 【例】

回	月	主 題 名	目 標	主 な 学 習 活 動
1	4	仲間づくり	子どもたち同士や教師との信頼関係を築く。	自己紹介をする。 楽しく過ごすために必要なことを発表する。
2	5	生活を見つめて	進級から1か月経ったこの時期に楽しいことや辛いこと等を発表し合うことで、学級の様子について考える。	楽しいこと・辛いこと等を発表する。 クラスとして、楽しいことをまとめる。 クラスとして、辛いことをまとめる。
3	5	ワイワイトーク (人権週間の取組)	「生活を見つめて」の中で出てきた辛い理由を考えさせることで、友達のかかわりについて考える。	辛い理由について考える。 友達のことによって困っていることを発表する。 隣の席の友達のよいところを考える。
4	6	「お互いの思いをもっと知り合おう」	友達の表面的な言動を指摘するだけでなく、自分の行動を振り返ることで、互いに尊重し合うことの大切さについて考える。	いやな思いをしたり、させたりした経験を出し合う。 教材文を読んで、登場人物の言い分や気持ちを考え、話し合う。 互いの思いを知ることの大切さについて考える。
5	6	「お互いの思いをもっと知り合おう」	人権学習発表会の場で発表する「友達紹介クイズ」を作る過程で、一人一人の「よさ」について、なぜそう思うのかを語り合いながら、お互いの思いをもっと知り合おうとする態度を養う。	「よさ」とは何かを考え、その中で見えてきた自分の気持ちについて考える。 人には「よさ」として取り上げてほしくないこともあることを知り、そのことについてのお互いの思いを話し合う。
6	6			グループ内でまとめ、クイズにする。 クイズの内容を再確認し、発表の準備をする。 グループ内で協力して、発表する。

#### 5 実際1

(1) 「お互いの思いをもっと知り合おう」

(2) 目標

友達の表面的な言動を指摘するだけでなく、自分の行動を振り返ることで、互いに尊重し合うことの大切さについて考える。

(3) 展開例

過程	主な学習活動	時間	留意点
導入	<p>1 友達からいやな思いをさせられたり，友達にいやな思いをさせたりした経験を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ けんか</li> <li>・ 悪口</li> <li>・ からかい など</li> </ul>	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでの経験から，友達との日常における接し方について自分を振り返らせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ポイント：過去に書いた日記を読ませるなどして，これまでにあった出来事を客観的に想起できるように助言する。</p> </div>
展開	<p>2 教材「お互いの思いをもっと知り合うために」（資料「まちがい」）を読み，話し合う。</p> <p>友達とのつきあいの中で，これまでに思いちがいや行きちがいや思い込みがなかったか。</p> <p>友達のよいところを見つけようと普段からしているか。</p> <p>身近な友達のよいところは何か。</p> <p>クラスみんなのよいところをもっと発見しよう。</p>	35分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分のことはさておき，人の言動ばかり指摘してはいなかったか，これまでの自分を振り返り，自分自身を見つめさせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ポイント：誰もがもっている内面的な「よさ」に目を向けさせ，その「よさ」を尊重しようとする態度を身に付けさせる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料に出てくる人物が自己を振り返る姿に，自分を照らし合わせて考えさせる。</li> <li>・ 隣の席の友達のよいところを書かせる。また，なぜそう思うのかを考えさせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ポイント：外見的特徴や人との比較でなく，友達が努力しているところや認めるところ，してもらってうれしかったことなどから，友達の「よさ」を考えさせる。 (例：「三つ以上書いてみよう。）」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ クラス全員のそれぞれに，よいところがあるということを改めて認識させることで，自分のこれまでの人との接し方を再度考え直すきっかけとする。</li> </ul>
終末	<p>3 人のよいところを見つめて接することの大切さについて，先生の話聞く。</p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ クラスみんながお互いに語り合える雰囲気築き，よりよい仲間づくりをめざしていきたいと思えるような説話でこの時間を閉じる。また，学級の実態に応じて，性別にこだわらず，互いに理解し合い，仲良く協力していこうという態度を育てることも必要である。</li> </ul>

(4) 評価

友達の表面的な言動を指摘するだけでなく，自分の行動を振り返ることで，互いに尊重し合うことの大切さについて考えることができたか。

## 6 実際2

(1) 「お互いの思いをもっと知り合おう」(2時間)

(2) 目標

人権学習発表会の場で発表する「友達紹介クイズ」を作ることを通して、一人一人のもつ「よさ」とは何かを考え、自分自身を見つめるとともに、お互いの思いをもっと知り合おうとする態度を養う。

(3) 展開例

過程	主な学習活動	時間	留意点
導入	1 これまでに自分たちが発表した「人権学習発表会」の内容を振り返ってみよう。	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなで見つけたお互いの「よいところ」を人権学習発表会で利用できないか考えさせる。</li> </ul>
展開	2 友達紹介クイズをつくって「人権学習発表会」の準備をしよう。 友達が書いた自分のよいところを再度読んでみる。 書いてもらった中に、発表してほしくない項目はないか考えてみる。 <b>例</b> くんは、背が高くていいな	70分	<ul style="list-style-type: none"> <li>クイズ形式で、友達の「よさ」を知ってもらうことを通して「全校のみんなにも、お互いによいと思う気持ちを伝えて、友達関係を深めていってほしい」という意識をもたせる。</li> <li>自分では「よいところ」だと思っていなくても、その人にとってはそうでないこともあることに気付かせるとともに、意見交換をする中で、お互いの思いに気付かせる。</li> </ul>

展 開	<p>グループの中から一人、クイズに出題する人を選ぶ。</p> <p>自分たちの気持ちをしっかり伝えられるように出題の順序を話し合う。</p> <p>用紙に清書したり、出題の練習をしたりする。</p>	70 分	
終 末	3 友達紹介クイズの発表に向けての思いをそれぞれ発表し合う。	10 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>単にクイズを楽しむのではなく、友達の「よさ」を紹介することで、内面的なよさに目を向けることの大切さを伝えたいという意気込みをもたせる。</li> </ul>

(4) 評価

人権学習発表会の場で発表する「友達紹介クイズ」を作ることを通して、一人一人のもつ「よさ」とは何かを考え、自分自身を見つめるとともに、お互いの思いをもっと知り合おうとする態度を養うことができたか。

(資料)

まちがい

わたしは、しんいちさんをせめすぎたと思います。  
今、反<sup>はん</sup>せいしています。

わたしも悪いところがありました。  
何回か注意したりしています。

でも、人のことばっかしでした。  
自分はどうなんだろうと思います。

わたしは、わるいところはいっぱいあります。  
あまり人のことはいえません。

自分のことなんかわすれて  
人のわるいところばっかし見ていました。

しんいちさんばっかし注意しているから  
しんいちさんがいちばん悪<sup>わる</sup>そうに見えます。  
ですが、それはまちがいみたいですね。

### 3 高学年：「差別を許さない仲間づくり」

#### この授業でめざすもの

- ・ 人間の尊厳,自己価値及び他者の価値を感知する感覚 【価値的・態度的側面】
- ・ 自他の価値を尊重しようとする意志・態度 【価値的・態度的側面】
- ・ 他者の痛み感情を共感的に受容できるための想像力や感受性 【技能的側面】
- ・ 能動的な傾聴とコミュニケーションの技能 【技能的側面】

#### 1 主題名 「差別を許さない仲間づくり」(特別活動, 道徳, 社会)

#### 2 主題について

子どもたちは,一見何の悩みもなく楽しそうに過ごしているように見えるが,一人一人を深く理解していくと,様々な思いを引きずりながら生活していることに気付かされる。自分が一人にならないように必死に友達にすがりついている子。自分の言動が友達にどう思われるかを気にしている子。自分らしくできない自分を卑下しながら,友達とのかかわりを閉ざして生活している子。友達をいじめることで自分のきつさから逃れている子...

本活動は,そんな子どもたちの思いを共有し合いながら,お互いの存在を認め合い,差別を許さない仲間づくりをめざす活動例として設定した。

#### 3 目標

仲間との真の出会いを通して,一人一人が自らの存在価値を認め,お互いを認め合いながら,差別をなくしていこうとする実践力をもつことができるようになる。

#### 4 指導計画(例)

月	道徳	特別活動	社会(6年東京書籍)	その他
4月	「マザー・テレサ」 (6年学研副読本)	学級開き 係活動(班活動:通年) エンカウンター(通年)	米作りと争い(弥生時代)	健康観察 班ノート 学び合い学習 (通年)
5月			貴族と民衆の暮らし(奈良・平安時代)	
6月	「この袋は わたしの命です」 人権教育読本「ひらく」 (実践例)	お互いの思いを 知り合おう1 (実践例)	一向宗と織田信長 刀狩と検地(安土桃山時代)	
7月			大名と武士の暮らし・人々の暮らしと身分(江戸時代)	

9月	「互いに 意識しちゃうよね」 (心のノート)		江戸文化を作り上げた人々・渋染 一揆・シャクシャインのたたかい (江戸時代)
10月	「いじめられて」 (6年学研副読本)	お互いの思いを 知り合おう2 (学級活動)	「身分解放令」・北海道開発難工事 とアイヌ民族(明治時代) 水平社宣言・女性の権利(大正時 代)
11月			関東大震災・田中正三と足尾銅山 (大正時代) 第二次世界大戦(昭和時代) これからの日本 差別のない世の 中(平成時代)
12月			
1月	「のりづけされた詩」 (6年学研副読本)	お互いの思いを 知り合おう3 (学級活動)	日本国憲法 ユニバーサルデザイン
2月			
3月			

道徳は学研の副読本，心のノート及び鹿児島県人権・同和教育研究協議会編の人権教育読本『ひらく』を活用した。

## 5 道徳の時間での実践例

(1) 教材名「この袋は私の命です」(人権教育読本『ひらく』より)

(2) 目標

誰に対しても差別することや偏見をもつことなく，公正，公平に接することができる。

(3) 仲間づくりの視点

一見何の悩みもなく楽しそうに過ごしていながら，様々な思いを抱えて生活している子どもたちが自分を見つめ，それぞれの思いを綴り，真につながる仲間づくりをめざす。

(4) 展開例

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点
導入	1 からだつきや病気など自分のこと で悩んでいることはありませんか。	5 分	1 投げかける程度にしておく。
展開	2 教材を読みましょう。	30 分	2 早紀さんがクラスの中でどん な思いだったかを考えながら読 ませる。
	3 早紀さんの気持ちについて考えて 話し合しましょう。		3 早紀さんが仲間と共に立ち上

展開	<p>(1) 早紀さんは、なぜみんなの前で自分のことを話したのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学級のみならず聞いてくれると思ったから。</li> <li>・ 一人じゃないって思ったから。</li> </ul> <p>(2) 早紀さんは、自分の思いを話した時、どんな気持ちになったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ すっきりした。</li> <li>・ 話してよかった。</li> </ul> <p>4 早紀さんの気持ちを聞いたクラスのみんなはどうしたでしょう。</p>	30分	<p>がっていく様子やその姿から早紀さんの気持ちを考えさせる。</p> <div data-bbox="938 309 1412 504" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ポイント：早紀さんにとって、一人ではない実感や仲間への信頼感があったこと、話すことで自分が解放される気持ちや、早紀さんの気持ちに共感する仲間存在から話してよかったという気持ちを捉えさせる。</p> </div> <p>4 本当の思いを知り合っていくことが本当の仲間につながっていくことを感じさせる。</p>
終末	<p>5 このクラスでは、お互いの悩みを出し合う関係になっていますか。</p>	10分	<p>5 自分のことや自分たちのクラスのことを見つめ、思いを綴る。（今後の学級活動等での実践に生かす。）</p>

(5) 評価

誰に対しても差別することや偏見をもつことなく、公正、公平に接する意欲が高まったか。

6 事後の取組

子どもたちが綴った文を読み、一人一人の思いをつかみ、きつい思いをしている子どもたちと個別に話すことが大切である。また、心の奥の思いを出せたことに共感し、その子の思いを深く知っていくようにする。その際、大切な仲間はどう伝えていくかを投げかけたり、家庭訪問をして保護者の思いを知ったりすることが大切である。

また、子どもたち一人一人が、自分の思いをクラスの仲間に伝え合えるためには、担任も自分自身の経験や思いを投げかけていくことが大切である。お互いの思いを知り合っていくことの大切さに気付かせるためには、展開例のような活動を行うことも考えられる。

7 学級活動での実践例（道徳の時間の実践と関連させて）

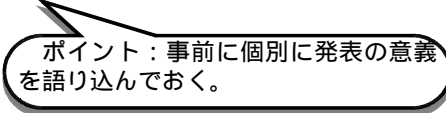
(1) 活動名 「お互いの思いを知り合おう1」

道徳の時間での授業を受けて、学級活動での実践につなげる。

(2) 目標

子どもたちが日常生活の中で抱えている不安や悩みを共有し合うことにより、お互いのことを知り合い、共に支え合っていく仲間としてのつながりを作っていく。

### (3) 展開例

避	主 な 学 習 活 動	時 間	指 導 上 の 留 意 点
導 入	1 道徳の時間に書いたそれぞれの思いについて考えていきましょう。	5 分	1 道徳で綴った思いについて事前に語り，子どもたちの思いを受け止めておく。
展 開	2 今まで心の中にためていた思いを紹介したいと思います。  3 友達の思いを聞いて，感じたことはありませんか。  4 友達の話を聞いて，自分のことを話してみたくなくなった人はいませんか。	30 分	2 全体に投げかける中で，みんなの前で紹介したり，発表したりできないか話しておく。    3 出された思いについて，自分の不安や悩みと重ねて感想をもたせる。  4 感想をもとに，自分の思いをまとめる時間を設け，発表しやすい雰囲気や状況をつくる。
終 末	5 今日みんなの意見を聞いて，書いてみたいことがあったら書いてみましょう。	10 分	5 お互いの思いを知り合っていくことの大切さに気付かせ，活動を続けていく。

### (4) 評価

子どもたちが日常生活の中で抱えている不安や悩みを共有し合うことにより，お互いのことを知り合い，共に支え合っていく仲間としてのつながりを作っていくことができたか。

## 8 社会科での実践

### (1) 目標

史実に基づきながら，人々が歴史の中でどのような生き方をしてきたのかを学び，自分の生き方についてつなげていく。

### (2) 社会科と人権教育の関係

社会科の目標は「社会生活についての理解を図り，我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て，国際社会に生きる民主的，平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。」とある。つまり，これまでの史実やその中で生きてきた人々の生き様に学び，民主的，平和的な国を形成する担い手を育てる学習と言える。

そこで，史実に基づきながら，人々がどのような歴史を歩んできたのか，その中でどのような生き方をしてきたのかを学び，自分たちの生き方につなげていく学習を展開したい。指導計画に位置付けたところは，差別と闘ってきた人々の生き様を学ぶ単元として挙げたものである。（ 学習の詳細例は，高学年：社会科授業実践例を参照）



### (3) 留意点

- ・ 今回は6年社会科をベースに指導計画を作成したが、5年生では「四大公害病」の問題などを取り上げ、それらの解決に向けて努力してきた人々の生き様を学ぶこともできる。
- ・ 社会科の学習が過去にあった問題の学習だけで終わらないためにも、子どもたち一人一人を深く理解し、日常生活と結びつけた取組が必要である。

## 9 その他の学校生活での実践

### 班活動

- ・ 子どもたちがお互いを深く知り合っていくために、係活動やグループ学習など班活動を学校生活の中核に据えて進めていく。その活動の中で、仲間づくりを推進していく。

### 学び合い学習

- ・ 教科においても得意・不得意は誰にでもある。お互いに聞いたり、教えたりしながら学び合う学習は、仲間づくりの具体的な実践だと位置付ける。分からなかった子が「分かった」と喜ぶ顔を見て共に喜ぶ、そのような学び合いの学習をめざしていきたい。そのためには、「分からないことを分からない」と言える学級をつくっていく必要がある。

### 班ノート

- ・ 班ノートは、お互いの思いを具体的に知り合っていく方法の一つとして取り入れていく。書かれた内容は、班のメンバーと担任が共有することを基本とし、学級全体に返すべきことは、班のメンバーと話し合い、確認したうえで全体に投げかけていく。単に自己紹介にとどまることなく、自分の内面を見つめ、心の奥にしまっていたことをノートに綴り合いながら、深く知り合っていくきっかけとする。

(班ノートの取組参照)

## この袋はわたしの命です

五年生が始まった四月、早紀さんは、「わたしは、いじめられています。くさいとかきたくないとかふけつだとか言われます。四年生のとき、担任の先生がお話ししてくれて、少しは言われなくなりました。でも、言わないだけで、みんなの心の中では思っていると思います。だから、わたしにさわったら手をふいたりするのだと思います。とても悲しいです。」

と日記に書きました。それを讀んだ先生は、その日の放課後、早紀さんと話をしました。

「つらかったね。早紀さんの気持ちをもっと聞かせて。」と言う先生の言葉に、早紀さんは、ぼつり、ぼつりと語り始めました。

「一年生のときから、ずっといやな思いをしました。たくさんの方が、わたしにいやなことを言いました……。」「早紀さんの目は涙でいっぱいです。」

「とてもくやしかったです……。何か言うとまた言われるのでじっとがまんしてきました。でも、がまんできずにおうちで、一人で泣いたこともいっぱいありました。わたしも、みんなといっしょに遊びたいです。みんなと同じように……。」「

早紀さんは、小さい頃から腎臓の病気のため、体に管を通してあります。その管は、袋につながっていて、その袋におしっこがたまります。おしっこは、体の中の毒を、体の外に運ぶ役目をします。管や袋は、早紀さんの命をつないできた大切なものです。小さいころは、袋にたまったおしっこをうまくすてられず、おしっこがもれてしまうことがありました。

五年生は、宿泊学習が計画されていました。話合いの時、早

紀さんが、

「わたしも行けるの?」

と先生にたずねました。

「もちろん。みんなといっしょに楽しもう。」

と答えると早紀さんにはっこりと笑いました。

先生は、早紀さんの家に行き、近づいてきた宿泊学習に早紀さんといっしょに行けないかたずねました。お父さんは、

「もう、管も三本から一本になってるし、もっと運動させようと思っっています。みんなといっしょに宿泊学習に行くこと

で、いろいろ言われなくなるかもしれない。また、それが

早紀のためにも一番良いのではないかと考えています。だから、

宿泊学習もみんなといっしょに行かせたいです。」

と語りました。

でも、心配事もあります。お風呂にはいるときは袋をはずし、

そのあとにバンソウコウをはります。寝るときは、つぶさない

ように袋を外にださなければなりません。

「そのことで、またいじめられるのではないのでしょうか。」

とおばあさんは心配そうです。お父さんもふさぎ込んでしまい、

早紀さんの笑顔もしだいに消えていきました。

先生が、もう一度早紀さんに、

「みんなといっしょに行こう。」

と言うと、早紀さんは、

「わたしもみんなといっしょに行きたいです。」

と答えました。

それから四人で語り合い、学級の人々に早紀さんの気持ちを

話すことを決めました。先生は、お父さんとおばあさんから、

病気のことや毎日の消毒のことをくわしく聞きました。

次の日、早紀さんと先生は、奈緒さんと友美さんに、「宿泊

学習に行けるかもしれないけど、体のことを考えると不安だ。」

ということを語りました。奈緒さんはかみの毛のことで、友美

さんは背が高いことで友だちからかわれてなやんでいること

を、日記に書いてきていました。二人はしばらく考えていまし

だが、  
「いっしょに行こうよ。みんなにも話そうよ。応援するよ。」  
と早紀さんをはげしました。

学級会の時、先生が、宿泊学習に早紀さんといっしょに行くことを話している途中、早紀さんが泣きだしました。となりの席の奈緒さんが、目に涙をためて彼女をだきかかえるように手を伸ばしました。学級はしーんとしています。

早紀さんはゆっくり立ち上がり、奈緒さんの手をしっかりとにぎり、

「みんなと一緒にいきたいけど、袋や体を見られることがとても心配です。それに、きたないとか、くさいとか言われてとてもつらかったです。」

と、みんなの顔をまっすぐ見て語りました。早紀さんに続いて奈緒さんは、

「早紀さんといっしょに行けるので、うれしいです。わたしは、早紀さんのつらい気持ちわかります。わたしもかみの毛の色のこと赤毛とか言われて、いやでいやでたまりませんでした。だから、早紀さんがいっしょに行けるって聞いたとき、自分のことみたいにいれしくてたまりませんでした。だから変なことを言ったら、わたしは早紀さんを守ります。」

と話しました。みんなは、黙ったままでした。先生が、  
「ほかに、早紀さんや奈緒さんみたいに、体のことで心配したり、なやんだりしている人はいませんか。」

とたずねると、しばらくして友美さんが、  
「わたしも、のっぼ、のっぼと言われ、とてもくやしかったです。背が高くなるのは、自分ではどうしようもできません。他にも、気にしていることをあだなで言われて、いやな気持ちになっっている人もいます。」

とみんなに問いかけました。すると、雄二さんが、真っ赤な顔をして立ち上がって

「ぼくは、ちび、ちびと言われてとてもいやだ。牛乳を飲んだり、鉄ぼうにぶら下がったりして努力しているのに、全然伸

びない。ぼくに、ちび、ちびと言わないでほしい。早紀さんも同じ気持ちだと思う。」

と訴えました。  
みんながだまっていると、大介さんが小さな声で、  
「早紀さんが、そんなになやんでいたなんて知らなかった。みんなといっしょにくさいとか言っていた。ごめん。」

と頭を下げました。また、由美さんも立ち上がって  
「わたしもいじめていました。みんなにつらかったなんて知らなかった。」

と泣きながら話しました。  
「大丈夫だよ。早紀さん。みんなといっしょにお風呂に入ろう。」

と、奈緒さんが声をかけました。雄二さんも、みんなも、  
「いっしょに行こうよ。」

と声をかけました。泣いている早紀さんは、少しだけうなずきました。

次の朝、いつもより早く学校に着いた早紀さんは、  
「わたし、みんなといっしょにお風呂に入ります。みんなにわかってもらいたい。だからいっしょに入ります。奈緒さんやみんなの気持ち、すごくうれしかった。」

と息をはずませて、笑顔で先生に話しました。  
朝の会で、早紀さんは胸をはって語りました。  
「みんなといっしょに宿泊学習に行きます。この袋はわたしの命です。この袋がわたしを支えてくれるように、みんながわたしを支えてくれたように、わたしもみんなを支えたいです。わかってくれる仲間がいるから。」

## 4 高学年：「社会科授業実践例」(単元名「幕府の政治と人々の成長」)

### この授業でめざすもの

- ・ 百姓や町人とは別にきびしく差別されてきた人々が受けてきた差別の歴史(人権侵害等に関する歴史)に関する知識 【知識的側面】
- ・ 正義, 自由, 平等などの実現という理想に向かって活動する意欲 【価値的・態度的側面】
- ・ 人権侵害を受けている人々を支援しようとする意欲 【価値的・態度的側面】
- ・ 偏見, 差別を見きわめる技能 【技能的側面】
- ・ 他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性 【技能的側面】

### 1 単元名 「幕府の政治と人々の成長」

### 2 単元について

これまで子どもたちに, 被差別部落 = 「低位なもの, 劣ったもの」と捉えさせがちだった部落問題についての学習を, 「差別と闘い続け命をつないできた人々の生き方に学ぶ」学習にしていきたいと考え, 本単元を構成した。

教科書の部落問題に関する記述もかつての「差別と貧困」から「生産と労働」の面に焦点を当てた内容に変化してきている。具体的には, 百姓や町人とは別にきびしく差別されてきた人々が厳しい差別の中で生活用具の生産や手工業, 芸能などに従事し, 生活を高め, 命をつないできたことや, 老人による腑分けが『ターヘルアナトミア』の翻訳につながり, 医学の発展に貢献したことなどである。

本単元の指導を通して, 厳しい差別が当然の世の中でも, 差別に屈することなく生き, 時には人間の尊厳をかけて差別と闘ってきた人々のたくましさ, そして, 労働や生活の中からすばらしい知識と技術を身に付け, 文化の発展に貢献してきたことに気付かせたい。また, 「渋染一揆」の学習では, 自分たちの生活を守るために, 支え合いながら生きてきた仲間が存在があったから差別に対して立ち上がる勇気を出せたことに気付かせ, 自分たちの学級の人間関係について考えるきっかけとしたい。

### 3 目標

- (1) 江戸時代の支配体制を, 身分制度や外国との関係などと合わせて理解するとともに, 生産力の高まりによる都市の繁栄や, 文化・学問の発達の様子を捉えることができる。
- (2) 厳しい差別の中でも, 差別に屈することなく力を合わせ生活を工夫し生きてきた人々のたくましさ・かしこさ・やさしさなどを理解し, 自分たちの生活の中での差別に気付き, 差別をなくす生き方について考えることができる。

#### 4 指導計画（全8時間）

小 単 元 名	時間	学 習 内 容
金沢藩の大名行列をさぐる	1	大名行列の様子から幕府と大名の関係を考え、学習課題を話し合う。
家光，大名たちに命じる	1	家光の言葉や大名配置図などから，幕府による大名支配について調べる。
鎖国への道	1	キリスト教禁止の理由や鎖国下での近隣地域との交流について調べる。
身分ごとに異なる暮らし	1	身分制度の下での百姓や町人の生活について調べる。
	1	百姓や町人とは別にきびしく差別されてきた人々の生活について調べる。（詳しくは，平成19年度「県人権教育指導資料」を参照）
にぎわう都市，花開く文化	1	江戸や大坂の様子から，当時の文化や人々の暮らしについて調べる。
力をつける農民	1	力をつける農民や差別と闘った人々について調べる。
玄白ら，「解体新書」を出版する	1	新しい学問が世の中にどのような影響を与えたか調べる。

#### 5 7時の実際（7/8教育出版）

(1) 小单元名 「力をつける農民」

(2) 目標

ア 生産力が向上し，力をつけた農民たちが，自分たちの生活を守るために団結して立ち上がることもあったことを理解する。

イ 差別の強化に対して，百姓や町人とは別にきびしく差別されてきた人々は，力を合わせ立ち上がり，別段儉約令を撤回させたことを理解する。

(3) 本時の実際

過程	主 な 学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 点
導入	1 農具の進歩や田畑の面積のグラフから，農業生産や農民の生活の変化について考える。 ・ 備中ぐわ，千歯こき，とうみ ・ 新田開発，用水の整備 ・ 綿花，なたね，茶，みかん	10分	資料「旅を楽しむ人々」から，生産を増やした農民たちが，伊勢参りや富士山参りなどを楽しむことができるようになったことに気付かせる。 資料「増える百姓一揆」のグラフから，暮らしを守るために団結する農民が増えていったことに気付かせる。
	2 百姓一揆と同じように命をかけて		幕府の役人であった大塩平八

<p>展開</p>	<p>闘った人々がいたことを知り，本時の学習問題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>力をつけた(岡山藩の)農民は，差別にどのように立ち向かったのだろうか。</p> </div> <p>3 役人だった平八郎が，なぜ打ちこわしを起こしたのか考える。</p> <p>4 渋染一揆について知り，なぜ立ち上がったのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町人，百姓に出された俵約令</li> <li>・ 別段俵約令</li> <li>・ 嘆願書</li> <li>・ 一揆に参加する人々の思い</li> </ul>	<p>30分</p>	<p>郎が打ちこわしを起こしたことを知らせる。</p> <p>飢饉で苦しんでいる人々を救うことは「正しいことだから」立ち上がったことに気付かせる。</p> <p>資料をもとに，「百姓と同じように年貢を納めているのに差別されることに対する怒り」や「つらさやきつさも共に支え合いながら生きてきた仲間がいる」から立ち上がったことに気付かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ポイント：一か八かの一揆ではなく，冷静な戦略(藩内の権力関係を分析する，署名の仕方は誰が首謀者か判断しにくい円形にする等)に基づいていたこと，さらに，その背景に時代を見抜く力を持っていたことがある。</p> </div>
<p>終末</p>	<p>5 本時の学習の感想を書き，友達と感想を交流し合う。</p>	<p>5分</p>	<p>「仲間の存在が，正しいことをなす上で，大きな力になる」ことに気付かせ，自分たちの学級は仲間としてつながっているか考える機会とする。</p>

(4) 評価

- ア 生産力が向上し，力をつけた農民たちが生活を変化させ，自分たちの生活を守るために団結して立ち上がることもあったことを理解できたか。
- イ 差別の強化に対して，百姓や町人とは別にきびしく差別されてきた人々は，力を合わせ立ち上がり，別段俵約令を撤回させたことを理解できたか。

(5) <参考資料>

百姓・町人に対する俵約お触れ書き(1855)

- 一 着る物は木綿にしなさい。綿入れや目立つ染め物はいけない。
  - 一 髪の上などに櫛やかんざしなど目立つ物をしてはいけない。
  - 一 雨の日は，みの傘を使いなさい。そまつな雨傘や栗の下駄以外は使ってはならない。

引用：『部落史に学ぶ』外川正明著 解放出版社

差別されていた人々に対する別段お触れ書き（1856）

- 一 着る物は無地の渋染か藍染に限る。また、紋付きは着てはならない。
- 一 雨の日には、土足では迷惑をかけるので栗の下駄をはいてもよいが、知り合いのお百姓に出会ったときは、下駄をぬいでお辞儀をしなさい。しかし、ほかの村に行くときには下駄をはいてはならない。
- 一 身分相応に暮らし、年貢をきちんと納めている家の女子に限って、そまつな雨傘をさすことを許す。

引用：『部落史に学ぶ』外川正明著 解放出版社

嘆願書

- 一 このたび儉約令を出された上に、私たちには別途のお触れを出され、私たち一同、大変困っております。
  - 一 私たちは、田を耕し年貢を納め、非常時には警備の仕事もしています。それなのにこのようなお触れを出され、百姓と分け隔てをされては、私たち一同生きるかいてもありません。若者たちは、農業をほってしまうほど元気をなくして、嘆かわしく思っています。
  - 一 15年前にも、私たちの服装を紋なしで、渋染か藍染にするようにお触れが出されましたが、私どもは生活が苦しいため十人のうち七・八人は、木綿の古着ですましており、新たに作ることはできませんと嘆願しましたところ、お触れをとり下げていただきました。
  - 一 私たちの中には、たしかに役人村として盗賊や強盗の逮捕にあたる村はありますが、それ以外の者たちもたくさん、この命がけの仕事に当たっています。それなのにすぐ分かる服装をしていたのでは、盗賊の方がさきに私たちを見つけてしまい、捕らえることもできなくなります。それでは、つとめを怠けていることになってしまいます。
  - 一 私たちは、15年前の儉約令以後、とりわけ農業にはげみ、年貢を多く納めることを手柄と考えるようになりました。自分たちが持っている田畑の年貢はもちろん百姓が捨ててしまった田畑も引き受けて耕し、日雇いやぞうり・わらじ作りなどを昼も夜もやって、年貢を納めました。そうしなければ、荒れ地がますます増えて、お困りになるからです。
  - 一 紋付きの着物は決して着てはならないとおっしゃいまして、私どもは、紋付きを新たに作る者などおりません。十人のうち七・八人は、古着を買い求めて着ています。他家の紋付きは、値段が安いのです。暮れの年貢が差しつかえたときは、質屋に入れて、とにかく年貢を納めようと、心して暮らしています。
- この度のお触れを承知しますと、老若男女とも身の上がどのようになるのだろうか、昼夜とわず嘆き悲しんでいます。みんな涙を流し、なぜこのような別の命令を出されたのか、嘆かわしいことだと思っています。
- どうかこれらのことを考えていただき、いままでどおりに、お許しになってください。

安政3年（1856年）1月28日

53村 判頭 86人連名

引用：『部落史に学ぶ』外川正明著 解放出版社

一揆に参加する人々の思い

いちぞく ち うちすてて おいたる親や つま こ  
 一族、わが地を うちすてて 老いたる親や 妻や子  
 い のぞ いま かたり わが いちや  
 生きる 望み 今はなし 語りあかした 別れの一夜  
  
 たえて こらえて ほそぼそと いのち つないで きょう ひ  
 うき世の 波の つめたさや かなしみ むねに こみあげる  
  
 み いちぞく おおいくさ いのち かけたる だいけつ  
 見よ わが一族の おおいくさ いのち かけたる 大決意  
 おやこ ちぎり ころのきずな かたく むすびて いま  
 親子の ちぎり 心のきずな かたく むすびて 今ここに  
 きんぷくしょうたんなんそき  
 「禁服訟歎難訴記」より

引用：『渋染一揆<改訂版>』解放出版社

6 8時の実際（8 / 8 教育出版）

- (1) 小単元名 「玄白ら、『解体新書』を出版する」
- (2) 目標

ア 「解体新書」の作成や伊能忠敬の地図作りの過程を調べることを通して、学問が発達していく様子を理解する。

イ 百姓や町人とは別にきびしく差別されてきた人々は、労働を通して知識と技術を身に付け、文化の発展に貢献してきたことに気付く。

(3) 本時の実際

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点
導入	1 杉田玄白、伊能忠敬の業績について調べる。 ・ 世界に目を向け、知識や技術を学ぼうとする気運が高まった。 ・ 日本のよさも見直し、新しい日本へと動き出す。	15分	西洋の人体図と中国の人体図を比較させ、西洋の知識や技術を学ぼうとした当時の人々の気持ちを考えさせる。 新しい学問が世の中にどういう影響を与えたか考えさせる。
展開	2 教科書の「解剖の見学」の挿絵をもとに、本時の学習問題を確認する。 なぜ百姓や町人とは別にきびしく差別されてきた人が、解剖したのだろうか。 3 資料「蘭学事始」を読み、虎松のおじいさんと、玄白らについて考える。	20分	挿絵をもとに、解剖の見学の様子を想像させる。 前に学習した「百姓や町人とは別にきびしく差別されてきた人々の生活」を想起させ、虎松のおじいさんが牛馬等の解体の技術を持っていたことに気付かせる。 「蘭学事始」に虎松のおじいさんのことが「健やかな老人」と書かれていることに注目させる。



展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>玄白たちは、虎松のおじいさんのことをどう思っているだろうか。</li> </ul>	20分	<div data-bbox="909 168 1396 436" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>ポイント：玄白は、人々がもつ百姓や町人とは別に差別されてきた人々への偏見を持ってなかったこと、既存の価値観にとらわれていなかったことを押さえる。特に自然科学(医学など)では、曇りのない目で物事を素直に見ることの大切さを強調する。</p> </div> <p>虎松のおじいさんたちは、皮革業などのすぐれた技術や知識を生かして、医学の発展に貢献したことをまとめる。</p>
終末	<p>4 学習の感想をまとめ、友達と感想を交流し合う。</p> <p>5 この単元を通して学んだことをまとめ、感想を交流し合う。</p>	10分	<p>虎松のおじいさんに代表される百姓や町人とは別に厳しく差別されてきた人々の生き方をどう思うか考えさせる。</p> <p>これまでの学習を振り返らせるとともに、自分たちの生活の中での差別に気付き、差別をなくす生き方について考えさせる。</p>

(4) 評価

- ア 「解体新書」の作成や伊能忠敬の地図作りの過程を調べることを通して、学問が発達していく様子を理解できたか。
- イ 百姓や町人とは別にきびしく差別されてきた人々は、労働を通して知識と技術を身に付け、文化の発展に貢献してきたことに気付くことができたか。

(5) 参考資料

「蘭学事始」

その日、皆で連れ立って人体解剖の場へ出かけた。解剖については、差別される身分の虎松というものが、巧みな技術を持っていると聞いたので、かねてから約束しておいた。ところが、この日、虎松が急病になったとのことで、その祖父、年齢90歳という老人が代わりにやってきた。健やかな老人であった。彼は、若いときより解剖は数回行ったことがあるという。

その老人は、メスをふるいながら、心臓・肝臓・胆嚢・胃などと説明していった。ほかに、「これは名は知らないが、だれの体にもここにこれがある。あそこにこれがある。」などと説明した。私(玄白)たちが持っていたオランダの解剖図と照らし合わせてみると一つも違ったところなかった。

引用：『部落史に学ぶ』外川正明著 解放出版社

## 「蘭学事始」後半

説明を受けた後の帰り道，私（玄白）は良沢に話した。「今日の人体解剖は，何もかも驚くことばかりでした。これまで人体のことを全く知らなかったのは，はずかしいことです。医師として，互いに主君に仕える身でありながら，医学の基本であるべき人体のしくみも知らず，今まで一日一日医者として勤めてきたことは，面目ないことです。何とぞ，今日のことをもとに，さらに人体内部の構造を詳しく知って医学に励んだら医師として立派にやっていけるでしょう。」と。良沢も「まったくそのとおりです。私も同感です。」と言った。

その時，私は「『ターヘルアナトミア』を私たちの手で翻訳してみようではありませんか。そうすれば，人体の内部や外部のことがよく分かって，治療するのに大いに役立つでしょう。」と言った。

「ターヘルアナトミア」の翻訳にいざ取りかかろうとしたが，櫓も舵もない船で大海にこぎだしたようなもので，どこへどのようにして立ち寄ったらいいのかもわからず，ただあきれはてるばかりだった。「眉というものは，目の上にはえた毛である。」という簡単な文でも，長い一日かかっても解き明かせず，日が暮れるまで考え，短い文も，一行も解き明かすことができなかった。

引用：『部落史に学ぶ』外川正明著 解放出版社

### 3 中学校

#### 1 「人を区別する普通って何」

##### この授業でめざすもの

- ・ 画一的な考え方に気付き、お互いの違いを認めることのできる技能。【技能的側面】
- ・ 友の心の痛みや思いを共感的に受容できる想像力や感受性。【価値的・態度的側面】
- ・ 人間の尊厳を大切にすることによって、差別を許さない仲間としてつながっていく技能。【技能的側面】

#### 1 主題名 「人を区別する普通って何」

(特別活動、道徳、総合的な学習の時間)

#### 2 主題について

新聞の投稿欄は、社会に対する人々の生の思いを知る手段として大変有益であり、そこから、個人の主義主張・世論だけでなく、私たちが日ごろ気付かないような視点を数多く学ぶことができる。他の読み物資料とともに、授業で新聞の投稿欄をさらに積極的に活用していきたい。

「人を区別する普通って何」という投稿は、平成17年(2005年)5月3日の朝日新聞に掲載されたもので、長崎県在住の方からのものである。文中より、我が子を「普通じゃない」と言われた親の無念さや障害者が生き生きと生活するには、ほど遠い現代社会の一面が察せられる。障害者が、社会で自然に生活する姿は、ごく限られているように見える。

社会的に弱い立場におかれがちな人が胸を張れない状況にある社会、その中で生活する子どもたちは、「お互いの違いを認める」「お互いを尊重し受け入れる」などといった価値と共に育っていない面もあり、人間を「強い」・「弱い」、「優」・「劣」などといった、単一的な価値基準で判断しがちである。これらは人間の尊厳についての平等に反しており、社会的に弱い立場におかれがちな人を排除し、差別を正当化する考えに通ずるものである。

本授業では、新聞の投稿欄の記事を読み物教材として用いることによって、障害のある子の母親の思いや痛みを自分のこととして捉えさせたい。また、「普通の人」から成り立つ「普通の社会」といった固定した考えから抜け出し、お互いの違いを認め、友の心の痛みや思いをめぐらせ、そして、その思いを語り合える学級集団づくりの一助になることをめざしたい。

#### 3 目標

- (1) 「普通の人」「普通の社会」といった固定した考えから抜け出し、人間の多様性を認め、友の心の痛みや思いに自分の思いをめぐらせることができるようになる。
- (2) それぞれの思いを深く受けとめ、自分のこととして考えることによって、それぞれが尊敬し合えるような仲間としての関係を築く。

#### 4 指導計画 (2時間)

「人を区別する普通って何1」新聞の投稿欄の記事から母親の思いを受けとめる。

「人を区別する普通って何2」前時の感想から自分の姿・有り様を見つめる。

#### 5 本時

##### (1) ねらい

ア 我が子を「普通じゃない」と言われた母親の思いから、その心の痛み思いをめぐらせ、もし自分が「普通じゃない」と言われたときのことを考える。

イ 友達の意見・感想を聞き、その意見・感想に対しての自分の考えを持つ。

ウ 自分の日ごろの生活が、お互いを尊重し受け入れるという考え方に立っているかどうか、自らの有り様を考える。

エ 友達の行動の背景を知り、心の痛みや辛さを共に分かち合う。

##### (2) 展開例

「人を区別する普通って何1」(1/2時間)

過程	主な学習活動	指導上の留意点
導入 5分	1 本時の内容を確認する。 ・ 「普通の人」のイメージを考える。	・ ワークシート を準備する。
展開 40分	2 資料を読む。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">人を区別する普通って何だろうか。</div> 3 母親の気持ちを考える。 ・ 学習形態(小グループ, 個別)は、学級の実態に応じて適宜定める。 ・ ワークシートに記入する。  4 自分の姿・身体的特徴・障害の状態を見て、「普通じゃない」と言われたらどんな気持ちになるか考える。 ・ ワークシートに記入する。 ・ 自分の気持ちを発表する。  5 授業の感想を書く。 感想例 ・ (視線や)言葉で「普通じゃない」と家族や自分が(見られると)言われると、どれだけつらいかわかって欲しい。おかしいことは、おかしいと言えるようになりたい。 ・ 一人一人、いろいろな性格があったり、個性があったりして私はいいと思う。	・ 平成17年(2005年)5月3日『朝日新聞』読者欄掲載記事を準備する。 ・ 場面が思い浮かぶように補足する。 ・ 印象に残った部分に傍線を引かせる。 ・ ワークシート に書かせ 発表(小グループ, 個別)させる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;">ポイント：それぞれの学習形態には次のような特長が考えられる。 ・ 小グループでは、他者の意見との交流が図られる。 ・ 個別では、内省が深まる。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;">ポイント：ワークシートに書いた後に発表させた方が意見を出させやすい。</div> ・ ワークシート を利用する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;">ポイント：子どもたちの感想が、「～してあげたい」でとどまるのではなく、「一緒に何ができるのか」といった視点にまで高まる必要がある。</div> ・ ワークシート を利用する。 ・ 次回に感想文をいくつか紹介することを予告する。
終末 5分	6 まとめをする。 教師の話聞く。	・ 子どもたちの意見に対する教師の感想や自身の体験を語る。

(評価)

ア 母親の思いを自分のこととして受けとめることができたか。

イ 友達の意見を傾聴し、自分の意見をもつことができたか。

「人を区別する普通って何2」(2/2時間)

過程	主な学習活動	指導上の留意点
導入 5分	1 前時の学習を振り返った後、本時の学習内容を確認する。	・ 前時の学習内容を振り返らせる。
展開 40分	2 前時の感想文を聞く。  3 印象に残る感想文について、より深く学習を進める。  例 「一人一人いろいろな性格があったり個性があったりして私はいいと思う。」 自分たちの学級はどうだろうか。きつい思いの友だちはいないだろうか。  4 友達の感想文について共感するものを選び、自分の思いを重ねていく。  5 それぞれの思いを綴る。  6 いくつかを紹介する。 感想例 ・ 私は悪口を言われて嫌な気持ちができることを分かっているのに、自分もそんなことをしようとしていた。	・ 事前に選んでおく。  ポイント：「一緒に何ができるのか」といったような観点での感想や学級内の人間関係を深めていくのに大事にしたい感想を選んでおく。  ・ 適宜教師が助言する。 ・ 子どもの感想文を選び、実際の生活ではどうなのか、考えを深めさせる。  ポイント：「一人一人いろいろな性格～」，そうでありたいが、実際はどうなのか、学級・学校、自分自身の姿や有り様を素直に見つめさせることが大切である。  ・ ワークシート を利用する。 ・ 感想は尊重し、肯定的に評価する。  ・ ワークシート に記入させる。  ・ 匿名で紹介するということを前提とする。 ・ 自分の行動を素直に見つめ、友の心の痛みを自分のこととして考えさせる。
終末 5分	7 まとめをする。  ポイント：性格や個性、身体的特徴などの違いを、それぞれ認め合うとともに、男女においても互いの人格を尊重し、協力していくことが必要であることを同時に伝えたい。	・ 教師自身の思いや経験、学級での子どもたちの様子を見て感じたことなどを語る。 ・ 感想文を後日の学級だよりで紹介する。

(評価)

ア 自分の生活がお互いを尊重し受け入れるという考えに立ち、自分の姿や有り様を考えることができたか。

イ 友達の行動の背景を知り、痛みや辛さを共に分かち合うことができたか。

ウ 友達の意見・感想に耳を傾け、その意見・感想に対しての自分の考えを持つことができたか。

(ワークシート)

( )年( )組( )

「普通」の人とはどんな人だろうか？

- ・ 自分がイメージする「普通」の人とはどんな人だろうか。
- ・ そうイメージする理由を書こう。

- ・ 私のイメージする「普通」の人は

( ..... な人 )

- ・ そうイメージした理由は

.....  
.....  
.....  
.....

自分の娘を「普通じゃない」と言われた母親は、どんな思いだったでしょう。

.....  
.....  
.....  
.....

自分の姿・身体的特徴・障害の状態を見て「普通じゃない」と言われたら、どんな気持ちになりますか。

.....  
.....  
.....  
.....

友達の意見や先生の話聞いて感じたことを書こう。

-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----

「一人一人、いろいろな性格があったり、個性があったりして、私はいいと思う。」

そうありがたいが、学級ではどうだろうか。きつい思いをしている友達はいないのだろうか。

-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----

本当の仲間になるためには、どうしたらいいだろうか。何が必要だろうか。

-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----

## 資料 人を区別する「普通」って何

「普通じゃないのよ」，その声に熊手を持つ手を止めて数メートル先を見た。潮干狩りに興じている幼児2人を連れた若いお母さんの口から出た言葉だとわかると，振り向いて娘を見た。

先月中学生になった娘には重い知的障害がある。思春期のシンボルも現れ始めたその顔や手は，泥で汚れていた。そうか，子どもから「あの人，大きいのに泥で遊んでいるよ」と質問され，それに答えたのだろう。母親もどう説明したらよいのかわからなかったのだろう。けれど「普通じゃない」という言葉は，幼い子どもたちをびしょりと黙らせるのには効果があった。

休日でも天気も良く，おまけに大潮だったので，かなりの人でにぎわったが，たくさんのアサリを持って帰ることができた。潮をふくアサリは，どれも同じものはない。色も模様も千差万別だ。まるで，他と違って当たり前と自己主張しているようだ。



「普通」・「普通じゃない」と分けられない社会になれば，その時が来れば私も娘を残す不安もなく死ねるかもしれないと思った。

平成17年（2005年）5月3日 「朝日新聞」より



## 2 「それぞれの『生きる』を考えよう」

### この授業でめざすもの

- ・ 自己についての肯定的な態度を育てる。 【価値的・態度的側面】
- ・ 自他の存在を尊重しようとする意志・態度を育てる。 【価値的・態度的側面】
- ・ 他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性を育てる。 【技能的側面】

### 1 主題名 「それぞれの『生きる』を考えよう」 （特別活動，総合的な学習の時間）

### 2 主題について

#### (1) 教材について（詩に込められた作者の思い）

この「生きる」という詩は，県内の元中学校教諭の作である。

作者は，平成16年（2004年）12月30日，40歳で亡くなられた。

ある日，体調を壊し，ただごとでないと感じてすぐ病院に行ったが，一か月半ほど，見当違いの治療を受けながら教壇に立っていた。しかし，病状はどんどん悪化し，次の病院に移ったときは歩くのもきつい状態になっていた。そこで，初めて「癌」であることを知り，同時にあと1年の命という宣告を受けた。その時には既に，手術も放射線治療もできない状態になっていた。

その時の思いを作者は次のように述べている。

「この病気とは正面から向き合っていきたいと思っています。そして大事な仲間には，私の考えを理解していただきながら，最後まで本音の付き合いをして欲しいと望んでいます。気を遣いながら友情を保つのは無理だからです。あくまでも希望は捨てませんが，希望だけにすがって無為に過ごし，後悔するわけにもいきません。まずは，この一年をどう生きるかということから考えました。」

また，自分の病のことを子どもたちに伝える思いを次のように語っている。

「子どもたちにも私の口から伝えるべきだと考えています。自分自身の立場，生き方，願いを伝える上では，被差別部落の親が子どもに立場を伝えることと重なります。そう考えると同和教育は，人が人と本気で関わることをすべての人に教えてくれる真実の教育だと改めて実感させられます。病気とも家族とも仲間たちとも最後まで真剣に向き合って生きられるのなら，悔いはありません。」

しかし，闘病中には肉体的な痛みや苦しみだけでなく，様々な悩みや葛藤に耐え続けなければならなかった。あとどれだけ生きられて，その間に家族のために何ができるのか…。そう考え始めると，次第に「長く生き過ぎてはいけないのでは…。」と，自ら生きることを放棄するような考えまでおきてきた。そんな時，作者を生かし続けたのは「家族」や「仲間」の思いや願いだった。この「生きる」という詩を創る過程で携わっていた仲間にこのような言葉を伝えている。

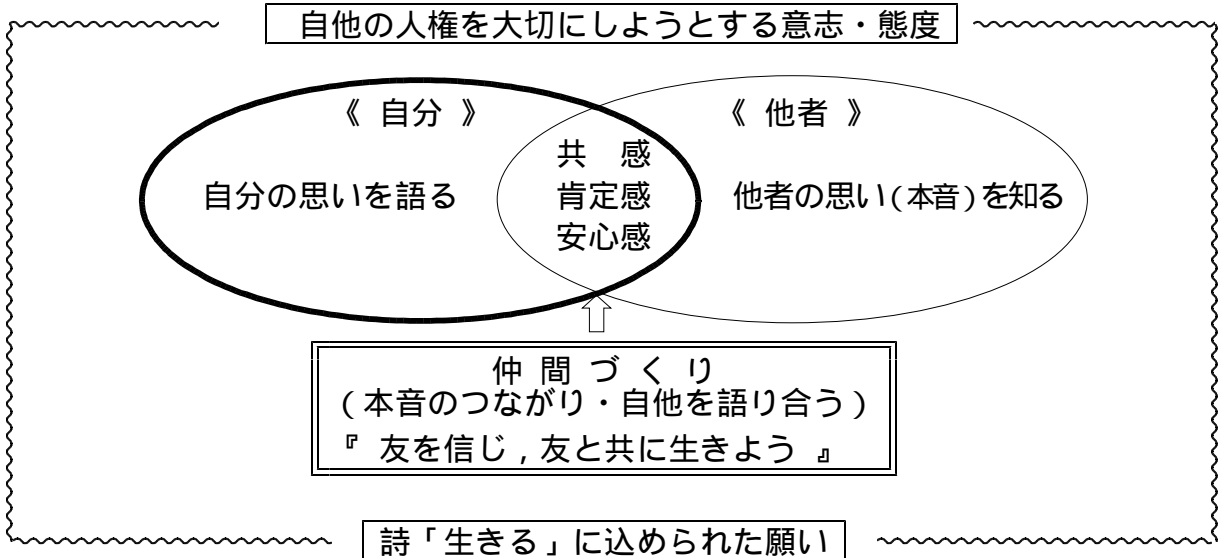
「急激にいろいろなことができなくなる苛立ちを越えて，やっと『何もしてい

「ないのではない。今自分がやるべきことはこの病と闘うことなんだ。』と思えるようになりました。実際の拷問のような痛みや苦しみが続く中で、さらに色々な自分が見えてきました。はいつくばって、なりふりかまわず、その瞬間を生きるだけで精一杯になります。Kさんの言われる「弱さ」もたくさん顔を出す。これもまた真実です。」

最後に、この詩「生きる」に込めた願いを次のように語っている。

「同和教育に出会う中で、命とは私一人のものではなく、様々な人の願いが、ずっと続いてきたものだということを学びました。そういう確かな命の中に自分の命も生かされているという安心感を詩にできたらと思うことです。」

今現在、子どもたちも大人たちもそれぞれが厳しい状況の社会や学校の中で、辛さ、きつさを実感していないだろうか。また、支え合う仲間とのつながりさえも、もてなくなっているのではないだろうか。この「生きる」という詩に託し、人は一人では生きられないということを、作者は自分のことを通して、差別に悩み、苦しむ子どもや親、仲間たちに「生きるとは...」「仲間とは...」ということを伝えている。



## (2) 指導に当たって(留意点)

ア 生徒一人一人の生活背景等を十分に把握した上で、授業を行う。

(特に、生徒自身または生徒の身近な人が「死」に直面していないかなど。)

イ 教師自身がこの詩を読んで、自分の「生きる」を考えておくことが大切である。

教師自身の心を通して詩に込められている思いを伝えなければ、他人事として聞こえてしまうからである。生徒たちに「自分のこととして」考えさせるためにも、まずは教師自身が「自分のこととして」この詩を読んでおくことが大切である。

ウ 学級など授業を行う集団の中で、被差別の立場にある(辛い思いをしている)生徒のことを中心に据えて、まずはその生徒が元気になる(生きようと思える)授業をめざすことが大切である。

## 3 目標

- (1) 「生きる」という詩に込められた作者の思いやその作者の周囲(家族、仲間)の思いを知る。(作者の思いについては、「2(1)教材について」参照)
- (2) 「生きる」とはどういうことか考える。
- (3) 「仲間(友)と共に生きる」とはどういうことか考える。

#### 4 展開例1 (1/2時間)

過程	主な学習活動	指導上の留意点
導入 10分	<p>1 詩「生きる」を読み，率直に思ったこと（感想）を書く。・・・ワークシート (1)</p> <p>2 その感想を学級で交流し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〔予想される生徒の感じ方・捉え方〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 自分の命を大切に，今を精一杯生きようとしている。</li> <li>* 生きたいという気持ちがとても強い。</li> <li>* この人は病気のかなあ。</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師が範読する。</li> <li>・ 生徒にも音読させる。</li> <li>・ 生徒が，詩をどのように捉えるのかをつかむ。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ポイント：発表しているときは自分の作業を一旦やめて，その人の方を向いて真剣に聴かせる。</p> <p style="text-align: right;">【能動的傾聴】</p> </div>
展開 30分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>詩を通して，「生きる」について考えよう。</p> </div> <p>3 詩の作者について教師の説明を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病の宣告，病との闘いの様子</li> <li>・ 家族や周りの人とのかかわり など</li> </ul> <p>4 あと1年の命と宣告された作者が，「生きる（生きよう）」と思った理由を，詩の言葉から探し線を引こう。また，なぜそこに線を引いたのか，自分の考えを右横にメモしよう。・・・ワークシート (2)</p> <p>5 グループ 学級全体で，それぞれの意見を交流しよう。（自他の考えを伝え合う。）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 誰の命であっても，終わりがあるといことを確認する。</li> <li>・ 「2(1)教材について」参照</li> <li>・ NHK（教育）放送「みんな生きている」(2005年度第19回放映)という番組で，作者のことが紹介されている。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ポイント：学級の実態に応じて，意見の交流の方法を工夫する。</p> <p>なお，一人一人に意見を発表できる場をできる限りつくる。</p> <p style="text-align: right;">【共感的受容】【肯定的評価】</p> </div>
終末 10分	<p>6 今日の学習を振り返って，作者の「生きる」とはどういうことだろうか。それぞれ考えたり気付いたりしたことを書こう。・・・ワークシート</p> <p>7 教師の「生きる」についての考えを聞く。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ポイント：詩の中の言葉に，教師自身の思いや体験を重ねて，自分のことを語る。</p> </div>

#### 《 評価 》

- (1) 詩に込められた作者の思いやその作者の家族，仲間の思いを知ることができたか。
- (2) 作者や教師自身の「生きる」についての考えや思いを聞いて，自分の「生きる」について考えることができたか。

## 5 展開例2 (2/2時間)

過程	主な学習活動	指導上の留意点
導入 5分	1 前時の学習を振り返り、「生きる」という詩に込められた作者の思いや願いを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時のワークシート の感想をもとに，作者が大切にしていたものを確認させる。</li> <li>「2(1)教材について」参照</li> </ul>
展開 35分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     自分の「生きる」を仲間に伝え，共にそれぞれの「生きる」について考えよう。                 </div> 2 自分のこれまでの「生きる」を振り返り，(作者みたいに)文章にしてみよう。 ...ワークシート (1) <p>(1) まずは自分がこれまで「どう生きてきたのか。」「生きるということはどう考えてきたのか。」をあるがままに書く。〔個別〕</p> <p>(2) 自分の「生きる」を仲間にそのまま伝える。〔グループ〕</p> <p>(3) グループ全員が発表し終わったら，互いにもう少し聞いてみたいことを質問し合う。</p> 3 仲間のそれぞれの「生きる」を聞いて，どう思ったか感想を書く。 ...ワークシート (2) <p>4 ワークシート (2)の感想を交流し合う。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     ポイント(1): 文章の形態は自由に。とにかく，自分の思いを言葉にすることを大切にす。【肯定的評価】                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     ポイント(2): 発表している人に対し，何も言わず，ただ聴くことだけを促す。 【能動的傾聴】                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     ポイント(3): 学級の実態(人間関係等)に十分配慮し，行う。                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     ポイント: 感想だけに限らず，今回の学習について発言したいことがあったら発表するよう促す。                 </div>
終末 10分	5 詩を読み返し，再度詩に込められた作者の思いを確認する。 <p>6 この授業に込めた教師自身の願い，あるいは，生徒自身の思いを伝え，共に生きていくことの大切さを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「2(1)教材について」参照</li> <li>結論づけず，それぞれに「考えることができたか」ということでまとめとする。</li> </ul>

### 《 評価 》

- (1) 「生きる」とは，どういうことかを考えることができたか。
- (2) 「仲間と共に」とは，どういうことかを考えることができたか。

# 生きる

## ワークシート

たとえこの身が 病に倒れ  
永遠の眠りが 訪れたとしても  
僕は死なない ずっとずっと  
君のところに 生き続ける  
涙流すとも 時は過ぎゆく  
悲しみに暮れず 喜びで時を満たそう  
明日の いのちのため  
今を 今を 今を生きる

たとえいのちが 燃え尽きて  
永遠にまぶたが 閉じられようと  
僕は死なない 君の胸に  
熱き想いが ある限り  
人はひとりで生まれ ひとりで死に逝く  
だからこそ友を信じ 友とともに生きよう  
明日を 創るために  
今を 今を 今を生きる

あきらめないで この人生は未だ終わらず  
悲しみ越えて この瞬間にすべてを注ごう  
いのちを 信じ  
強く 強く 強く生きる

明日を 生きるために  
今を 今を 今を生きる

(2) \_\_\_\_\_  
作者はなぜ「生きる」と考えた  
のだろうか。

(1) \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_年( )組( )

詩を読んで、感想を書こう。

-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----

## 生きる ～共にそれぞれの「生きる」を考えよう～

ワークシート

( )年( )組( )

作者の「生きる」って、何だろう。あなたが考えたこと、思ったことを書こう。

-----  
-----  
-----  
-----  
-----

## 生きる ～共にそれぞれの「生きる」を考えよう～

ワークシート (1)

( )年( )組( )

自分のこれまでの「生きる」を振り返り、(作者みたいに)文章にしよう。

-----  
-----  
-----  
-----  
-----

## 生きる ～共にそれぞれの「生きる」を考えよう～

ワークシート (2)

( )年( )組( )

それぞれ「生きる」を聞いて、あなたが思ったことや考えたことを書こう。

-----  
-----  
-----  
-----  
-----

## 4 高等学校

### 1 「自分の生き方を見つめる」

#### この授業でめざすもの

- ・ ありのままの自分を認められる態度をはぐくむ。 【価値的・態度的側面】
- ・ 相手のことを自分のこととして考えられる想像力や感受性をはぐくむ。 【技術的側面】
- ・ 障害がある人への差別の実態，不合理を知る。 【知識的理解】

#### 1 主題名 「自分の生き方をみつめる」(特別活動，総合的な学習の時間)

#### 2 主題について

手記の作者は，生まれたときの影響で，両手に麻痺が残ったことから，生活のほとんどを足で行う。小・中・高と養護学校で過ごし，卒業後は就職して自立していきたくと思っていたが，雇ってくれる企業は，なかなか見つからなかった。それでも地域の中で働き，暮らしたいという気持ちから，養護学校のときの仲間と作業所を立ち上げ，ホームヘルパー制度を利用しながら生活している。平成16年(2004年)6月には，足でハンドル操作する運転方法で自動車運転免許を取得した。免許取得を申請してからも様々な審査があり，許可が出るまでに2年，教習に半年かかったという。

また，作者は，「人が差別する訳は相手のことをよく知らないからだと思う。自分を知ってもらうことが，「障害」に対する差別や偏見をなくすことになる。」「自分でできるようになることも大切だけど，努力してできないこともあるのだから，困ったときに『自分の思いを言葉にして相手に伝えること』も大切だと考えるようになった。」と，障害に対する偏見や差別をなくしていくために，地域や学校などで講演活動も行っている。

障害者に対する偏見や差別心の壁に何度も阻まれながらも，自らの思いを伝え，懸命に生きる作者の姿から，人が人として互いに理解し，支え合って生活していくことができる社会の大切さを考えさせられる。また，作者の生き方との出会いが，様々な苦難を乗り越えていく力になると考える。

家庭や学校の様々な生活の中で，辛さや悩みを抱え込んでいる生徒たちが，自らの気持ちを周りの仲間に打ち明けることにより，仲間としてつながり自分に自信をもてるようにしていきたいと考え，本主題を設定した。

#### 3 本時

##### (1) 目標

ア 自分や他の人の「考え方」や「生き方」について考えさせることにより，他の人の心の痛みや感情を共感的に受容できる想像力や感受性を身に付ける。

イ お互いを認め合い，支え合いながら生きていくためには，自分の思いを相手に伝えることや周りの人を理解しようとするのが大切であることに気付く。

(2) 展開例

過程	主な学習活動	指導上の留意点
導入 10分	<p>1 本時の学習課題を知る。 「自分の生き方を見つめよう」 (1) 導入の投げかけをする。 溝や下水等にお金を落とした経験はないか。</p> <p>(2) グループをつくる。 (1グループ5～6人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要に応じてアイスブレイキングを行う。</li> </ul> <p>ポイント：悔しかったことや悲しかったときの気持ちが、どれほどだったかを分かるように語り合う。</p>
展開 30分	<p>2 資料を読み、各段落ごとに話し合う。</p> <p>(1) 下線 について話し合う。 自分ならどうするかを考える。</p> <p>(2) 下線 について話し合う。 友達や親・先生などのかかわりの中で、このような経験がないか。また、このような状況になったときの自分の気持ちを想像してみよう。</p> <p>(3) 下線 について話し合う。 笑顔で手伝ってくれた人は、どのような思いで手伝ってくれたのだろう。</p> <p>(4) 下線 について話し合う。 困ったときに、自分の思いを言葉にして相手に伝えることの大切さについて考えてみよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作者はどんな人なのか、自分に置き換えて、想像力をはたらかせて読ませる。</li> <li>行動だけの答えに終わらず、その理由まで考えさせる。</li> <li>人は、信じる・信じられる誰かがいるから、自分の思いを語り、相手の思いを分かることができる。そして、自分と相手のことを認めることができることを捉えさせる。</li> </ul> <p>ポイント：勇気を出して...の文言から本当に困った状況の中で、葛藤している気持ちを想像する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手のことを自分のこととして考えられる「想像力や感受性が豊かな人」「人の痛みが分かる人」などという意見を引き出すようにする。</li> </ul> <p>ポイント：人から大切にされ、うれしいと感じた経験が、自分にも他の人にも優しくなれることを押さえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>障害がある、ないにかかわらず、努力してもできない事や苦手な事は誰にでもある。できないことは、恥ずかしいことでなく、自分の思いを言葉にして相手に伝えることで、周りの人の理解が得られ、</li> </ul>



<p>展開 30分</p>	<p>(5) 下線 について話し合う。 お互いを認め合いながら，支え合って生きていくことの大切さを考えてみよう。</p>	<p>作者も自分を肯定的に受けとめられるようになったことを伝える。</p> <p>ポイント：助けてもらったり，支えてもらったりしたとき，どんな気持ちになれたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>お互いの違いを認め合える関係において，自分自身のよさを高めていくことができることに気付かせる。 また，人権尊重を基盤として，男女が共に相互の人格を尊重する関係も重要であることに気付かせる。</li> </ul> <p>ポイント：“人”と記述してあることに着目させ，「ありがとう」に込められている思いの深さを考えさせる。</p>
<p>終末 10分</p>	<p>3 作者の考え，生き方を通して，これからの自分の生き方についてまとめる。</p> <p>ポイント：単に学習内容の感想に終わらないように，作者が求めている社会から，自分の学級や家庭での生活を見つめさせるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「人が差別する訳は相手のことをよく知らないからだ…。自分を知ってもらうことが、『障害』に対する差別や偏見をなくすことになる。」と地域や学校などで講演活動を行っていることや，「一番伝えたいことは，『障害』がある，ないにかかわらず，お互いの違いを認め合っ，共に生きていく社会を実現していくことが必要だ。」ということなど，作者の生活や社会に対する思いを紹介しながら授業のまとめをする。</li> </ul>

(3) 評価

- ア 他の人の心の痛みや感情を共感的に受容できる想像力や感受性を身に付けることができたか。
- イ 自分の思いを相手に伝えることや周りの人を理解することが大切であることに気付くことができたか。

ある夏の暑い日.....

自動販売機でジュースを買おうとしたが、うまくお金を入れることができなくて  
お金を溝に落としてしまった

再度挑戦したけど、またしても溝に落としてしまった

暑くてのどはカラカラ.....

自動販売機と格闘して、すでに15分が経ち、200円も失っていた  
再々度挑戦しようとしたとき、私の頭の中で、天使と悪魔がささやいた

天使は、「三度目の正直」がんばれ.....

悪魔は、「二度あることは三度ある」無理、無理、あきらめろ.....

そのとき、第三の方法がひらめいた

私は、勇気を出して通りかかる人に声をかけた。

案の定、無視されてしまった

それから4人目になって、その人が笑顔で手伝ってくれた

私は、乾いたのどをやっと潤すことができた

そのとき私は、こう考えた

自分で出来るようになることも大切だけど、努力しても出来ないこともあるのだから、困ったときに『自分の思いを言葉にして相手に伝えること』も大切だ

たくさんの人と出会い、いろんな話をし、自分の感性が磨かれていく.....

人はひとりでは生きられないから “人”

みんながいる ありがとう

## 2 『自分の大切さ』と『他の人の大切さ』

### この授業でめざすもの

- ・ 人間の尊厳，自己価値及び他者の価値を感知する感覚をはぐくむ。【価値的・態度的側面】
- ・ 自他の価値を尊重しようとする意思・態度を養う。【価値的・態度的側面】
- ・ 他の人と対等で豊かな関係を築くことができる技能を培う。【技能的側面】

### 1 主題名 『自分の大切さ』と『他の人の大切さ』（特別活動，総合的な学習の時間）

### 2 主題について

豊かな人権感覚をはぐくむためには，学校・学級の中で，自分や他の人が大切にされていると実感できるような雰囲気づくりが大切であり，そのような意図的な日々の取組が必要である。様々な個性や感性をもつ生徒たちが，周りとの関係も大切にしながら，学校や学級で自分らしく生きていく基盤づくりのための一つの活動として，この主題を設定した。

生徒たちは，小学校・中学校と過ごす中で，周りの友達との関係において，程度の差はあれ，それぞれに救われた思いや報われなかった思いなどをもって，高校へと進学してきていると考える。家族や友達など，周りの人とのつながりから自分を静かに振り返り，自分の中にある様々な気持ちを見つめ直すことによって，「自分のことが好き」と思う気持ち（自尊感情）をはぐくんでいきたい。そこから，人と人とがよりよい関係の中で生活できるようにするために「自分の大切さ」と「他の人の大切さ」をしっかりと認め合うことが，まず前提であることを念頭において，生徒たちの心に語りかけながら，これからの生き方を考えるきっかけとしたい。

### 3 指導に当たって（留意点）

- (1) 友達とワークシートを交換したり，自分が感じたことを述べたりすることで，お互いの気持ちをより知り合えるようにするために，学級での人間関係が少しできてきたころに設定する。
- (2) 何かができる・できないは，その人の大切さと無関係であることを教師が認識し，「今ここに生きていることがすばらしい」というメッセージを教師が心の中にしっかり持っておく。そのためにも，教師自らが，生徒はそれぞれによさを持っているという基本認識に立つことが不可欠である。
- (3) 人権感覚をはぐくむために，授業だけでなく学級経営においても，一人一人が大切にされていると実感できるような活動を意識して取り入れていく必要がある。

#### 4 本時

##### (1) 目標

ア 自分を支えてくれる大切な人の存在と命のつながりから、「自分の大切さ」を感じ取る。

イ 「自分の大切さ」から「他の人の大切さ」へとつながるとき、人は人の中で豊かに生きていけることに気付く。

##### (2) 展開例

過程	主な学習活動	指導上の留意点
導入 10分	1 <u>今日までのあなたにかかわってくれた大切な人</u> をワークシートの「わたし」の周りに書く。  2 1で書いた一人一人が、「わたし」を大切な人と思っているかを考えて、該当する人に を付ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>呼び名で書かせる。</li> <li>人とのかかわりの中で、今の自分が存在していることを感じられるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>ポイント：これまで育ってきた自分のその時々気持ちを振り返り、周りにはいつも誰かが自分を支えてくれたことに気付くようにする。</p> </div>
展開 30分	3 <u>自分の命</u> につながる人をたどらせる。一人の命にかかわる人のつながりから、かけがえのない自分の命を知る。 (例：絵本「いのちのまつり」草場一壽作 [サンマーク出版] を教師が読み聞かせる。など)  4 “あなたとともに” の詩を黒板に掲示する。 人はひとりでは 生きていけない だけど「わたし」は 誰にもかわれない 私の「わたし」とあなたの「わたし」が ともに生きてく すばらしさよ	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分に受け継がれてきた命は、果てしなく多くの人の命とつながっていることを感じられるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>ポイント：誰にも代わることのできない自分の命の尊さに気付くようにする。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>「わたし」の命の尊さ、「わたし」の大切さ、「わたし」が大切にしている人は、その人にとって私も大切な人であることなどを感じ取らせたい。</li> </ul>

<p>展開 30分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>この言葉に込められたメッセージは何かを考える。</li> <li>ワークシートをもう一度見てみる。(友達同士で交換してもよい)</li> </ul> <p>5 普段の自分の言動を振り返ってみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分を大切にしているか。</li> <li>周りの人を大切にしているか。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>ポイント：学習内容の1, 2, 3と対応させながら、私がそうであるように、隣の人も同じであることを感じ取ることができるようにする。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>かけがえのない私の「わたし」は、かけがえのないあなたの「わたし」であり、人が人とかかわりながら生きていくときには決して忘れてはならないことだと気付かせる。 また、人権尊重を基盤として、男女が共に生きることの大切さについても深く考えさせていく。</li> </ul>
<p>終末 10分</p>	<p>6 「あなたとともに」の詩の 雲の流れに 心うばわれ 夕焼けの色に 心なごみ 風の強さに 心おどろき 空の広さに 心みちて は、どんな心境のときにそう感じたのかそれぞれの意見を出し合う。</p> <p>7 この詩から感じたことをもとに、「自分はどう生きたいか」を考える。 地球を愛し 自然を愛し ふるさとを愛し 出会いを愛す 人間(ひと)を愛し いのちを愛し そして「わたし」は あなたを愛す</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「嬉しいとき」「悲しいとき」「幸せなとき」「辛いとき」など、一人一人にそれぞれの感じ方に違いがあることを知り、なぜそうだったのか、その人の気持ちに関心を寄せていくことが、お互いを尊重する第一歩となることを考えさせる。</li> <li>これからの自分の生き方への模索となるように投げかける。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>ポイント：どんな自分になりたいかを問いかける。</p> </div>

(3) 評価

ア 自分を支えてくれる大切な人の存在と命のつながりから、「自分の大切さ」を感じ取ることができたか。

イ 「自分の大切さ」から「他の人の大切さ」へとつながるとき、人は人の中で豊かに生きていけることに気付くことができたか。

あなたとともに

雲の流れに 心うばわれ 夕焼けの色に 心なごみ  
風の強さに 心おどろき 空の広さに 心みちて

人はひとりでは 生きていけない だけど「わたし」は 誰にもかわれない  
私の「わたし」と あなたの「わたし」が ともに生きてく すばらしさよ

地球を愛し 自然を愛し ふるさとを愛し 出会いを愛す  
人間(ひと)を愛し いのちを愛し そして「わたし」は あなたを愛す

詩は、平成19年度 人権教育資料「なくそう差別 築こう明るい社会」にも掲載

今日までのあなたにかかわってくれた大切な人を「わたし」の周りに書き出してみよう。

わたし

表紙絵

霧島市立万膳小学校 4年 藤井 幸義 さん

平成19年度「人権に関するポスターコンクール」作品（最優秀賞）



人権教育指導資料  
実践例集 仲間づくり

平成20年(2008年)  
鹿児島県教育庁人権同和教育課  
〒890-8577  
鹿児島市鴨池新町10番1号